

(様式第10)

6 管理 第 97 号

令和 6 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 公立大学法人 名古屋市立大学
理事長 郡 健二郎

名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
氏名	公立大学法人 名古屋市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

名古屋市立大学病院

3 所在の場所

〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
電話(052) 851 - 5511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有					
内科と組み合わせた診療科名等						
1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績						
・呼吸器内科およびアレルギー疾患内科は、呼吸器・アレルギー疾患内科で主に診療している。 ・血液内科は、血液・腫瘍内科で主に診療している。 ・内分泌内科および代謝内科は、内分泌・糖尿病内科で主に診療している。						

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
・内分泌外科については、耳鼻咽喉科および泌尿器科で主に診療している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				無			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	肝臓内科	2	膵臓内科	3	呼吸器・アレルギー疾患内科	4	内分泌・糖尿病内科	5	血液・腫瘍内科
6	脳神経内科	7	形成外科	8	小児泌尿器科	9	リハビリテーション科	10	病理診断科
11	臨床検査科	12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
28	0	0	0	772	800

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	314	239	541.4	看護補助者	79	診療エックス線技師	0	
歯科医師	4	29	13.4	理学療法士	19	臨床検査 臨床検査技師	76	
薬剤師	63	1	63.7	作業療法士	5		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	7		その他	0
助産師	56	0	0	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	930	51	964.2	臨床工学士	22	医療社会事業従事者	10	
准看護師	0	1	0.5	栄養士	0	その他の技術員	36	
歯科衛生士	4	3	5.7	歯科技工士	1	事務職員	263	
管理栄養士	10	5	14.8	診療放射線技師	53	その他の職員	2	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	61	眼科専門医	7
外科専門医	44	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	10	放射線科専門医	16
小児科専門医	27	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	10	整形外科専門医	25
泌尿器科専門医	16	麻酔科専門医	21
産婦人科専門医	13	救急科専門医	11
		合計	283

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (間瀬 光人) 任年月日 令和 3 年 4 月 1 日

平成17年～18年 医療安全管理室副室長
 平成13年5月～ 医療事故防止等検討委員会(平成27年～医療安全管理委員会)委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	608 人	6.4 人	614.4 人
1日当たり平均外来患者数	1746.3 人	76.4 人	1822.7 人
1日当たり平均調剤数		1549	剤
必要医師数		163.3	人
必要歯科医師数		5	人
必要薬剤師数		21	人
必要(准)看護師数		373	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	401.67 m ²	S造 一部SRC/R C造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	16 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	268.45 m ² 0 台	病床数	17 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名	62.81 m ²			
化学検査室	520.9 m ²	S造 一部SRC/R C造	(主な設備)	検体検査システム	
細菌検査室	123.15 m ²		(主な設備)	微生物検査システム	
病理検査室	221.79 m ²		(主な設備)	病理標本染色封入システム	
病理解剖室	81.18 m ²	S・SRC造	(主な設備)	解剖台、臓器撮影台、滅菌装置(UV)	
研究室	193.13 m ²	S造 一部SRC/R C造	(主な設備)	クリーンベンチ、オートクレープ滅菌装置	
講義室	401.9 m ²		室数 1 室	収容定員 320 人	
図書室	96.98 m ²		室数 2 室	蔵書数 5800 冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.7	%	逆紹介率	78.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		16,822		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,756		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2364		人
	D: 初診の患者の数		22,656		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
宮本 忠壽	知多厚生病院名誉院長	○	医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師	無	1
岩崎 良平	日本ガイシ株式会社代表取締役副社長		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	2
蘆原 千晶	中日新聞記者		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	2
大磯 義一郎	浜松医科大学医学部医学科総合人間科学法学教授		法律に関する識見を有する者	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 公表の方法: 病院ホームページにて公表している https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	3人
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	121人
子宮受容能検査1	0人
	0人
先進医療の種類合計数	3
取扱い患者数合計(人)	124人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	0人
先進医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	全身性毛細血管漏出症候群の急性発作治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 全身性毛細血管漏出症候群の急性発作治療			
医療技術名	十二指腸内視鏡腹腔鏡合同手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 十二指腸腺腫や癌などを、内視鏡的粘膜下層剥離術で切除した後に、切除後の潰瘍底を腹腔鏡下に縫縮し補強する治療法。全国的にも限られた先進施設のみで施行している低侵襲治療法。			
医療技術名	十二指腸内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 十二指腸腺腫や癌などを、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)で切除する低侵襲治療法。十二指腸ESDは難易度が極めて高く、リスクも高いため、高度な治療手技を要するため、全国的に限られて先進施設のみで施行されている低侵襲治療法である。			
医療技術名	咽喉頭内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 耳鼻科と協力し、耳鼻科で喉頭展開をしていただいた後に、咽喉頭の早期がんを内視鏡的に切除する方法。喉頭温存を可能とする究極の低侵襲治療法であり、全国的にも限られた施設のみで施行されている。			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁置換術	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要: 高齢、あるいは他の疾患を患っているために従来の開胸による外科的大動脈弁置換術の適応とならない			
医療技術名	デバイスを用いた心臓再同期療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要: 最適な薬物治療を受けているにもかかわらず、心不全が改善しない心臓伝導障害を有する低左心機能			
医療技術名	経カテーテル的左心耳閉鎖デバイス挿入術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要: 出血リスクが高く、抗凝固療法がためらわれる脳梗塞発症高リスク患者に対し、カテーテルを用いた左心			
医療技術名	補助人工心臓管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要: 外来での補助人工心臓の管理(多職種が携わるドライブライン感染評価、抗凝固療法、ポンプ管理、心			
医療技術名	特発性拡張型心筋症(指定難病)に対する診療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要: 指定難病である特発性拡張型心筋症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			
医療技術名	肥大型心筋症(指定難病)に対する診療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要: 指定難病である肥大型心筋症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			
医療技術名	サルコイドーシス(指定難病)に対する診療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要: 指定難病であるサルコイドーシス患者(心臓病変を合併)の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理			

医療技術名	肺動脈性肺高血圧症に対する診療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要: 指定難病である肺動脈性肺高血圧症患者の外来ならびに入院管理。特定疾患書類管理を含む。			
医療技術名	卵円孔開存(PFO)閉鎖術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要: 奇異性脳塞栓症の確定診断例もしくは潜在性脳梗塞で原因としてPFOの関与が疑われる患者に対する			
医療技術名	トランスサイレチン型心アミロイドーシス(指定難病)に対する診療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要: トランスサイレチン型心アミロイドーシス患者の外来ならびに入院管理。治療薬であるタファミジスは認定			
医療技術名	経皮的僧帽弁修復術(TEER)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要: 重度の僧帽弁閉鎖不全症に対する、経カテーテル的僧帽弁修復術(edge-to-edge修復)			
医療技術名	造血幹細胞移植療法	取扱患者数	24人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>自家および同種造血幹細胞移植療法は、造血器腫瘍治療において極めて重要な手段である。高度の骨髄抑制および免疫抑制に伴う合併症管理が治療成績を左右し、多臓器にわたる専門的な管理が必要であるため、チーム医療を学ぶ良い機会となる。</p>			
医療技術名	キメラ抗原受容体T細胞療法(CAR-T細胞療法)	取扱患者数	25人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>CAR-T細胞療法は、患者さんからリンパ球(T細胞)を採取した後に、キメラ抗原受容体(Chimeric Antigen Receptor: CAR)という人工的な分子を導入することでがん細胞を直接攻撃するようにT細胞を遺伝子改変し患者さんに戻してがんを攻撃する新たな免疫・細胞療法です。当院は中部地区では数少ないCAR-T細胞療法の提供可能施設です。</p>			
医療技術名	Lドバ持続経腸療法	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>進行期パーキンソン病患者に対する運動症状の改善を目的に、胃瘻から小腸上部へチューブを留置し、ゲル状のLドバ製剤をポンプにて持続的に投与する治療</p>			
医療技術名	臍頭十二指腸切除術	取扱患者数	23人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>臍頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させうえて、臍頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。</p>			
医療技術名	腹腔鏡下(ロボット支援を含む)臍頭十二指腸切除	取扱患者数	17人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>臍頭部癌または遠位部胆管癌、十二指腸乳頭部癌などに対して胃のほぼ全てを温存させうえて、臍頭部、十二指腸、胆嚢、胆管を合併切除し、空腸を用いて再建している。これを腹腔鏡(ロボット支援を含む)で施行。</p>			
医療技術名	腹腔鏡下(ロボット支援を含む)膵体尾部切除術	取扱患者数	13人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して腹腔鏡(ロボット支援を含む)で膵体尾部切除を行っている。</p>			
医療技術名	Frey手術	取扱患者数	7人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>良性または低悪性度膵体尾部腫瘍に対して腹腔鏡(ロボット支援を含む)で膵体尾部切除を行っている。</p>			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術(ロボット支援下を含む)	取扱患者数	51人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝切除を腹腔鏡下(ロボット支援を含む)で行っている。</p>			

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下結腸切除術	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要 da Vinciとhinotoriを用いてロボット支援下に結腸切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用いて大腸を全摘出し、肛門と回腸を吻合する。主に潰瘍性大腸炎・家族性大腸ポリポーシスに対して施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下骨盤内臓全摘術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 多臓器に浸潤した直腸癌・S状結腸癌に対してロボットを用いた腹腔鏡手術で骨盤内の臓器を合併切除している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺合併直腸切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ロボット支援下に腹腔鏡を用いて前立腺合併直腸切除術を施行している。本年度は該当患者がなかった。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下直腸切除術	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 da Vinciとhinotoriを用いてロボット支援下に直腸切除術を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下食道アカラシア手術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 アカラシア手術を腹腔鏡下にて安全に施行している。本年度は該当患者がなかった。			
医療技術名	胸腔鏡下食道亜全摘術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対して胸腔鏡・腹腔鏡下食道亜全摘術を安全に施行している。			
医療技術名	ロボット支援下食道亜全摘術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 切除可能食道癌に対してロボット支援下食道亜全摘術を安全に施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下下部食道噴門側胃切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 切除可能食道胃接合部癌に対してロボット支援下に根治手術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下幽門側胃切除術	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要 胃癌に対するロボット支援下幽門側胃切除術を安全に行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下噴門側胃切除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 上部胃癌に対するロボット支援下噴門側胃切除術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下胃全摘術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 胃癌に対する胃全摘術をロボット支援下に安全に行っている。			

医療技術名	気管支腫瘍・狭窄に対する気管支鏡下YAGレーザー治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要:気管支腫瘍・悪性腫瘍腫瘍浸潤・術後気管支狭窄に対し、気管支鏡下にYAGレーザー照射を行い、気管支を開存させる治療。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要:da Vinciを使用した肺悪性腫瘍に対するロボット支援胸腔鏡下肺葉切除、区域切除術。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要:da Vinciを使用した縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術。			
医療技術名	悪性腫瘍浸潤気管狭窄に対する気管支鏡下ステント留置術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要:悪性腫瘍の気管浸潤による気管狭窄に対し、ステント留置し気道を確保。			
医療技術名	胸膜切除/肺剥皮術(P/D)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:悪性胸膜中皮腫に対し、術前化学療法後に行う、胸膜切除/肺剥皮術(P/D)。			
医療技術名	腹壁破裂修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:新生児における腹壁破裂に対する修復術			
医療技術名	腹腔鏡補助下ヒルシュスプルング病根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:乳児におけるヒルシュスプルング病に対する腹腔鏡補助下修復術			
医療技術名	会陰式鎖肛修復術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要:新生児、幼児における直腸肛門奇形に対する一期的修復術			
医療技術名	肺分画症手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要:乳児、学童における肺分画症に対する手術			
医療技術名	肺切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要:乳児、学童における先天性嚢胞性肺疾患に対する手術			
医療技術名	肝右葉切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:乳児における肝悪性腫瘍に対する手術			
医療技術名	仙骨会陰式鎖肛修復術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要:乳児における直腸肛門奇形に対する修復術			

医療技術名	脊椎腫瘍骨全摘術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 特殊な器械を用いて展開し、脊髄を損傷することなく脊椎腫瘍骨を全摘出する国内もほとんどされていない手術			
医療技術名	自家液体室素処理骨移植	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 液体室素に腫瘍のある骨を浸して腫瘍細胞を凍死させ、その骨を再建に用いる方法			
医療技術名	手術支援ロボット下 人工関節置換術	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 ロボット支援下の手術で正確なインプラント設置ができる手術である			
医療技術名	全内視鏡下脊椎手術	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 局所麻酔下に極細い内視鏡を使用し低侵襲脊椎手術で国内でも一部の施設のみでしか行っていない手術である			
医療技術名	精巣内精子回収法 (TESE) により得られた精子を用いた顕微授精	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 精巣内から直接得られた精子を用いた顕微授精をおこなうことにより、重症男性不妊症の患者が、生児を得ることが出来る。			
医療技術名	筋硬直性ジストロフィーに対する着床前遺伝学的検査	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 遺伝性疾患である筋硬直性ジストロフィー罹患者カップルの胚に対して着床前遺伝学的検査を行うことにより、児への疾患の伝播を防ぐことが出来る。			
医療技術名	染色体相互転座に起因する習慣流産患者に対する着床前胚染色体構造異常検査 (PGT-SR)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 均衡型染色体相互転座を有する習慣流産症例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで流産を予防することができる。			
医療技術名	体外受精治療反復着床不成功症例あるいは不育症症例に対する着床前胚染色体異数性検査 (PGT-A)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 体外受精治療反復不成功症例あるいは不育症症例の受精卵に対し、PGT-Aを行うことで妊娠率が向上出来る。			
医療技術名	習慣流産患者の妊娠管理	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 習慣流産患者の診断、治療をおこない妊娠継続分娩管理をおこなう。			
医療技術名	重症妊娠高血圧症候群患者の管理	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 重症妊娠高血圧症候群の患者を、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をおこなう。			
医療技術名	不育症患者に対する抗凝固療法	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 抗リン脂質抗体症候群は不育症の原因の1つであり、抗凝固療法 (ヘパリン・アスピリン) により治療する。			
医療技術名	母体血胎児染色体検査	取扱患者数	800人
当該医療技術の概要 胎児染色体数異常 (21・18・13トリソミー) について母体血を用いて非確定的に診断する。			

医療技術名	前置胎盤・胎盤早期剥離などハイリスク妊婦に対する帝王切開術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 重篤な合併症を引き起こす可能性のある疾患である、高度な集約的治療により、妊娠・分娩管理をする。			
医療技術名	妊娠中期破水妊娠の管理	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 妊娠中期の前期破水は母体のみでなく胎児にも大きな影響を与える。集約的な治療によって妊娠分娩管理をする。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨腫固定術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体癌に限る)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。			
医療技術名	新生児脳低温療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 低酸素性虚血性脳症(HIE)は、多くは仮死に続発して心臓と脳の循環の破綻から低酸素や脳虚血が起こり、新生児の神経学的予後を悪化させる。新生児脳低温療法はHIEに対する治療法で出生前後の一次的脳障害機転(虚血と再灌流による循環障害)が生じた際、その後続く二次的脳障害(遅発性神経細胞壊死、アポトーシス)の防止を目指す。			
医療技術名	人工内耳埋め込み術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 高度難聴の症例に対して人工内耳埋め込みとその後の聴覚リハビリテーションを行っている。			
医療技術名	鏡視下咽頭・喉頭悪性腫瘍手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 早期の咽頭癌、喉頭癌に対する低侵襲手術として、経口腔的に内視鏡を用いた切除を行っている。			
医療技術名	甲状軟骨形成術II型	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 痙攣性発声障害に対してチタンブリッジを挿入する音声改善手術を行っている。			
医療技術名	DRAF III 前頭洞手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 慢性副鼻腔炎に対して内視鏡下に前頭洞を単洞化する手術を行っている。			
医療技術名	天疱瘡(指定難病)の治療	取扱患者数	92人
当該医療技術の概要: 難治性天疱瘡へのリツキシマブ投与を含め、皮膚科専門医による専門的治療を行っている。			

医療技術名	膿疱性乾癬(指定難病)の治療	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要:皮膚科専門医による膿疱性乾癬の専門的治療を行っている。			
医療技術名	表皮水疱症(指定難病)の治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要:皮膚科専門医による表皮水疱症の専門的治療を行っている。			
医療技術名	間質性膀胱炎(ハンナ型)に対する膀胱水圧拡張術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 間質性膀胱炎(ハンナ型)(指定難病226)に対し、膀胱水圧拡張術による治療を施行するもの。			
医療技術名	下垂体前葉機能低下症(下垂体性男子性腺機能低下症)に対するホルモン補充療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 下垂体性男子性腺機能低下症(指定難病78)に対し、HCG製剤および遺伝子組換えヒトFSH製剤の補充を行うもの。			
医療技術名	腹腔鏡下逆流防止術	取扱患者数	3人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、膀胱外アプローチで行う腹腔鏡手術である。先進医療Aとして厚生労働省が認めた高度な手術であり、全国でも数施設でしか行われていない高度な技術を必要とする手術である。私たちの実績も踏まえ、関連学会からの申請により、2024年6月から保険収載となった。			
医療技術名	腹腔鏡内精巣に対する腹腔鏡下精巣固定術	取扱患者数	16人
小児に対するより低侵襲な手術として腹腔鏡を全国に先駆けて取り入れ行っている。腹腔内からの精巣の観察ができ、開腹による手術の時の理解にもつながっている。			
医療技術名	膀胱尿管逆流に対するロボット支援腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	取扱患者数	0人
先天性疾患である膀胱尿管逆流に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。医師主導の臨床試験として院内の倫理審査委員会での承認のもとに施行している。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。本年度は施行症例はなかったが、継続していきたい。			
医療技術名	先天性水腎症に対するロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	19人
先天性疾患である水腎症に対し、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて手術治療を行う技術。2020年4月から保険収載となった。従来の腹腔鏡手術に比べ、高精細な視野、自由度の高い鉗子を用い、手術成績の向上が期待される。			
医療技術名	高難度の泌尿生殖器の先天異常に対する手術治療	取扱患者数	0人
泌尿生殖器および下部消化管の複雑な先天異常疾患である、総排泄腔遺残(指定難病293)や膀胱外反症。総排泄腔外反(指定難病292)は、発生頻度が10-20万人に1人と希少疾患である。治療には尿路・生殖器・消化器など広い範囲で高難度の手術治療が必要となる。複数の関連各科と合同し手術治療を行い、安全に施行できている。			
医療技術名	尿道下裂に対する手術治療	取扱患者数	25人
尿道下裂は250-300人に1人と比較的頻度の高い陰茎の先天異常である。軽度のものから性分化疾患を合併する非常に高度な症例まで幅ひろく存在し、当院へは高度の症例が多く紹介され、手術治療を行っている。当科で開発した手術方法を用いて、良好で安全な治療成績を得ている。			
医療技術名	先天性腎尿路異常に対する腹腔鏡下膀胱内手術	取扱患者数	1人
先天性腎尿路異常のうち、尿管瘤や異所性尿管などの先天性疾患に対し、膀胱内に直接トロカールを挿入して炭酸ガスを送気して手術を行う腹腔鏡下膀胱内手術を行う技術である。気膀胱手術とも呼ばれる。従来の開放手術にくらべ創が小さく、低侵襲に行うことができる。			
医療技術名	こころの発達外来	取扱患者数	600人
当該医療技術の概要 児童・思春期に特有な疾患および全ライフステージにおける発達障害について心理検査を含めた専門的な診療を提供する。			

医療技術名	サイコオンコロジー	取扱患者数	500人
当該医療技術の概要 がん患者とその家族に対して、支持的精神療法を基本としつつ、がんという疾患の特性を良く理解し、患者の苦痛を包括的に評価し、多職種と協働しながら精神心理的支援を提供する。			
医療技術名	難治性てんかんの診断と治療	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要 難治性てんかんの診断精査として、入院で終夜脳波などの発作時ビデオ脳波同時記録を行っている。治療として、入院・外来で抗てんかん薬による薬物療法および迷走神経刺激療法(VNS)を行っている。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 これまでに数種類の抗うつ薬を十分量、十分期間服用しても改善の得られない難治性うつ病や、副作用のために薬物治療を行えない治療抵抗性うつ病、高齢者のうつ病に対しては、修正型電気けいれん療法を麻酔科の協力を得て行う。			
医療技術名	神経性やせ症の低体重に対する入院治療プログラム	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 低体重で入院を要する神経性やせ症患者に対して、精神科病棟で身体的な安全を確保しながら栄養療法を実施するものである。体重を増加させるだけでなく、治療全体の中で家族とともに心理的な回復も目指しながら評価・対応を行う。			
医療技術名	反復経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 薬物抵抗性うつ病に対して、実施される反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS療法)。ECTとは異なり、電磁力を利用して、うつ病の回復を促す。			
医療技術名	重症筋無力症など神経筋疾患の麻酔管理	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 指定難病である重症筋無力症など、神経筋疾患を持つ患者に対する麻酔管理は高度な技術が求められる。特定機能病院では、呼吸管理の専門知識を持つ麻酔科医が関与する			
医療技術名	多系統萎縮症(MSA)やALSなどの進行性神経疾患に対する麻酔・人工呼吸管理	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 これらの難病患者に対する呼吸や循環管理が非常に複雑である。特定機能病院では、麻酔科医が呼吸器・循環器の専門チームと連携しながら、病態に応じたきめ細かな管理を行なう。			
医療技術名	がん治療における麻酔管理(化学療法・放射線治療との連携)	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 先進医療として提供されるがん治療、特に外科手術やインターベンションに麻酔科が関与する。がん性疼痛の緩和や、化学療法や放射線治療による副作用の管理も含めて、麻酔科医が重要な役割を果たす。特にがん患者に対する術中の疼痛管理や神経ブロックなどは、特定機能病院の高度な技術と設備が必要である。			
医療技術名	脳深部刺激療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 指定難病であるパーキンソン病に対し電極を埋め込み日内変動を改善させるための治療法			
医療技術名	脳脊髄動静脈シャント疾患に対する脳血管内治療	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要:硬膜動静脈瘻および脳動静脈奇形に対して行うカテーテル治療			
医療技術名	顎裂部への脛骨移植術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 通常、唇顎口蓋裂患者の顎裂部には腸骨移植が行われるが、術後の早期離床、骨採取量の軽減を目的として脛骨移植を行った。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	95
取扱い患者数の合計(人)	3888

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	6	71 特発性大腿骨頭壊死症	40
2 筋萎縮性側索硬化症	15	72 下垂体性ADH分泌異常症	34
3 脊髄性筋萎縮症	6	73 下垂体性TSH分泌亢進症	0
4 原発性側索硬化症	0	74 下垂体性PRL分泌亢進症	0
5 進行性核上性麻痺	15	75 クッシング病	29
6 パーキンソン病	524	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
7 大脳皮質基底核変性症	2	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	5
8 ハンチントン病	3	78 下垂体前葉機能低下症	102
9 神経有棘赤血球症	0	79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	49
10 シアルコー・マリー・トウス病	11	80 甲状腺ホルモン不応症	1
11 重症筋無力症	150	81 先天性副腎皮質酵素欠損症	0
12 先天性筋無力症候群	0	82 先天性副腎低形成症	1
13 多発性硬化症/視神経脊髄炎	53	83 アジソン病	36
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	28	84 サルコイドーシス	277
15 封入体筋炎	2	85 特発性間質性肺炎	42
16 クロウ・深瀬症候群	0	86 肺動脈性肺高血圧症	137
17 多系統萎縮症	9	87 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	45	88 慢性血栓性肺高血圧症	6
19 ライソゾーム病	0	89 リンパ脈管筋腫症	1
20 副腎白質ジストロフィー	2	90 網膜色素変性症	0
21 ミトコンドリア病	4	91 バッド・キアリ症候群	2
22 もやもや病	43	92 特発性門脈圧亢進症	1
23 プリオン病	0	93 原発性胆汁性胆管炎	51
24 亜急性硬化性全脳炎	0	94 原発性硬化性胆管炎	26
25 進行性多巣性白質脳症	0	95 自己免疫性肝炎	156
26 HTLV-1関連脊髄症	5	96 クロウン病	203
27 特発性基底核石灰化症	0	97 潰瘍性大腸炎	455
28 全身性アミロイドーシス	17	98 好酸球性消化管疾患	0
29 ウルリッヒ病	0	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	5
30 遠位型ミオパチー	1	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
31 ベスレムミオパチー	2	101 腸管神経節細胞減少症	0
32 自己食空胞性ミオパチー	0	102 ルピンシュタイン・テイビ症候群	1
33 シュワルツ・ヤンベル症候群	0	103 OFC症候群	2
34 神経線維腫症	43	104 コステロ症候群	0
35 天疱瘡	96	105 チャージ症候群	0
36 表皮水疱症	5	106 クリオピリン関連周期熱症候群	0
37 膿疱性乾癬(汎発型)	59	107 若年性特発性関節炎	13
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	108 TNF受容体関連周期熱症候群	0
39 中毒性表皮壊死症	2	109 非典型溶血性尿毒症症候群	1
40 高安動脈炎	20	110 ブラウ症候群	0
41 巨細胞性動脈炎	0	111 先天性ミオパチー	6
42 結節性多発動脈炎	23	112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0
43 顕微鏡的多発血管炎	79	113 筋ジストロフィー	56
44 多発血管炎性肉芽腫症	107	114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	52	115 遺伝性周期性四肢麻痺	1
46 悪性関節リウマチ	10	116 アトピー性脊髄炎	0
47 バージャー病	5	117 脊髄空洞症	29
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	15	118 脊髄腫瘍	27
49 全身性エリテマトーデス	480	119 アイザックス症候群	0
50 皮膚筋炎/多発性筋炎	253	120 遺伝性ジストニア	2
51 全身性強皮症	110	121 神経フェリチン症	0
52 混合性結合組織病	75	122 脳表ヘモジデリン沈着症	0
53 シェーグレン症候群	510	123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0
54 成人スチル病	20	124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0
55 再発性多発軟骨炎	5	125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0
56 ベーチェット病	119	126 ベリー症候群	0
57 特発性拡張型心筋症	126	127 前頭側頭葉変性症	2
58 肥大型心筋症	132	128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0
59 拘束型心筋症	2	129 痙攣重症型(二相性)急性脳症	5
60 再生不良性貧血	47	130 先天性無痛無汗症	0
61 自己免疫性溶血性貧血	71	131 アレキサンダー病	0
62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	132 先天性核上性球麻痺	0
63 特発性血小板減少性紫斑病	162	133 メビウス症候群	1
64 血栓性血小板減少性紫斑病	7	134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1
65 原発性免疫不全症候群	3	135 アイカルディ症候群	0
66 IgA腎症	132	136 片側巨脳症	0
67 多発性嚢胞腎	25	137 限局性皮質異形成	0
68 黄色靱帯骨化症	46	138 神経細胞移動異常症	0
69 後縦靱帯骨化症	129	139 先天性大脳白質形成不全症	0
70 広範脊柱管狭窄症	2	140 ドラベ症候群	5

疾患名	患者数	疾患名	患者数
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	212 三尖弁閉鎖症	8
142 ミオクローニ-欠伸てんかん	0	213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	7
143 ミオクローニ-脱力発作を伴うてんかん	0	214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	10
144 レノックス・ガスト-症候群	4	215 ファロー四徴症	85
145 ウエスト症候群	0	216 両大血管右室起始症	58
146 大田原症候群	0	217 エプスタイン病	5
147 早期ミオクローニ-脳症	0	218 アルポート症候群	1
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	219 ギャロウェイ・モワト症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	23	220 急速進行性糸球体腎炎	181
150 環状20番染色体症候群	0	221 抗糸球体基底膜腎炎	6
151 ラスマッセン脳炎	0	222 一次性ネフローゼ症候群	7
152 PCDH19関連症候群	0	223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	224 紫斑病性腎炎	5
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	225 先天性腎性尿崩症	1
155 ランドウ・クレフナー-症候群	0	226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
156 レット症候群	5	227 オスラー病	19
157 スタージ・ウェーバー-症候群	2	228 閉塞性細気管支炎	3
158 結節性硬化症	13	229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	6
159 色素性乾皮症	4	230 肺胞低換気症候群	12
160 先天性魚鱗癬	3	231 α 1-アンチトリプシン欠乏症	0
161 家族性良性慢性天疱瘡	3	232 カーニー複合	0
162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12	233 ウォルフラム症候群	1
163 特発性後天性全身性無汗症	2	234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0
164 眼皮膚白皮症	0	235 副甲状腺機能低下症	107
165 肥厚性皮膚骨膜炎	0	236 偽性副甲状腺機能低下症	6
166 弾性線維性仮性黄色腫	0	237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
167 マルフアン症候群	26	238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	30
168 エーラス・ダンロス症候群	4	239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
169 メンケス病	0	240 フェニルケトン尿症	0
170 オクシピタル・ホーン症候群	1	241 高チロシン血症1型	0
171 ウィルソン病	6	242 高チロシン血症2型	0
172 低ホスファターゼ症	4	243 高チロシン血症3型	0
173 VATER症候群	1	244 メーブルシロップ尿症	0
174 那須・ハコラ病	0	245 プロピオン酸血症	0
175 ウィーバー-症候群	0	246 メチルマロン酸血症	1
176 コフィン・ローリー-症候群	0	247 イソ吉草酸血症	0
177 ジュベール症候群関連疾患	0	248 グルコーストランスポーター1欠損症	1
178 モワット・ウィルソン症候群	0	249 グルタル酸血症1型	0
179 ウィリアムズ症候群	5	250 グルタル酸血症2型	0
180 ATR-X症候群	2	251 尿素サイクル異常症	2
181 クルーゾン症候群	0	252 リジン尿性蛋白不耐症	0
182 アペール症候群	1	253 先天性葉酸吸収不全	0
183 ファイファー-症候群	0	254 ポルフィリン症	2
184 アントレー・ピクスラー-症候群	0	255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0
185 コフィン・シリス症候群	1	256 筋型糖原病	0
186 ロスマンド・トムソン症候群	0	257 肝型糖原病	0
187 歌舞伎症候群	5	258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
188 多脾症候群	3	259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
189 無脾症候群	2	260 シトステロール血症	0
190 鯉耳腎症候群	0	261 タンジール病	0
191 ウェルナー-症候群	1	262 原発性高カイロミクロン血症	0
192 コケイン症候群	2	263 脳腫黄色腫症	0
193 プラダー・ウィリ症候群	13	264 無 β リポタンパク血症	0
194 ソトス症候群	4	265 脂肪萎縮症	2
195 ヌーナン症候群	22	266 家族性地中海熱	21
196 ヤング・シンブロン症候群	0	267 高IgD症候群	1
197 1p36欠失症候群	3	268 中條・西村症候群	0
198 4p欠失症候群	1	269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	17
199 5p欠失症候群	1	270 慢性再発性多発性骨髄炎	1
200 第14番染色体父親性ダイソミー-症候群	0	271 強直性脊椎炎	25
201 アンジェルマン症候群	19	272 進行性骨化性線維異形成症	0
202 スミス・マギニス症候群	2	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	2
203 22q11.2欠失症候群	6	274 骨形成不全症	14
204 エマヌエル症候群	1	275 タナトフォリック骨異形成症	0
205 脆弱X症候群関連疾患	0	276 軟骨無形成症	4
206 脆弱X症候群	0	277 リンパ管腫症/ゴーハム病	2
207 総動脈幹遺残症	1	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
208 修正大血管転位症	14	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
209 完全大血管転位症	32	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	3
210 単心室症	42	281 クリップェル・トレネー・ウェーバー-症候群	2
211 左心低形成症候群	6	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0

疾患名	患者数	疾患名	患者数
283 後天性赤芽球癆	2	312 先天性僧帽弁狭窄症	1
284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0	313 先天性肺静脈狭窄症	0
285 ファンconi貧血	0	314 左肺動脈右肺動脈起始症	0
286 遺伝性鉄芽球性貧血	0	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／LMX1B関連腎症	7
287 エプスタイン症候群	0	316 カルニチン回路異常症	1
288 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0	317 三頭酵素欠損症	0
289 クロンカイト・カナダ症候群	1	318 シトリン欠損症	11
290 非特異性多発性小腸潰瘍症	1	319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
291 ヒルシユスブルグ病(全結腸型又は小腸型)	7	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
292 総排泄腔外反症	1	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
293 総排泄腔遺残	5	322 β-ケトデオラーゼ欠損症	0
294 先天性横隔膜ヘルニア	6	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
295 乳幼児肝巨大血管腫	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
296 胆道閉鎖症	3	325 遺伝性自己炎症疾患	1
297 アラジール症候群	7	326 大理石骨病	0
298 遺伝性膀胱炎	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
299 嚢胞性線維症	2	328 前眼部形成異常	0
300 IgG4関連疾患	70	329 無虹彩症	0
301 黄斑ジストロフィー	6	330 先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	4
302 レーベル遺伝性視神経症	2	331 特発性多中心性キャッスルマン病	2
303 アッシュヤー症候群	1	332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
304 若年発症型両側性感音難聴	0	333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
305 遅発性内リンパ水腫	3	334 脳クレアチン欠乏症候群	0
306 好酸球性副鼻腔炎	41	335 ネフロン癆	0
307 カナバン病	0	336 家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
308 進行性白質脳症	1	337 ホモシスチン尿症	1
309 進行性ミオクローヌスてんかん	0	338 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
310 先天異常症候群	0	339 MECP2重複症候群	0
311 先天性三尖弁狭窄症	1	340 線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
		341 TRPV4異常症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	197
合計患者数(人)	6,879

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・ハイリスク分娩管理加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・歯科外来診療感染対策加算4	・バイオ後続品使用体制加算
・特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神10:1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算2
・診療録管理体制加算2	・入退院支援加算1
・医師事務作業補助体制加算2 30対1	・入退院支援加算3
・急性期看護補助体制加算(看護補助者5割未満)	・精神科入退院支援加算
・看護職員夜間配置加算1 12対1	・認知症ケア加算1
・療養環境加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算1	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算2	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算	・救命救急入院料1
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料3
・精神科リエゾンチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・栄養サポートチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料2
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・重症患者初期支援充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・外来栄養食事指導料の注3	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・心臓ペースメーカー指導管理料の「注5」に掲げる遠隔モニタリング加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・糖尿病合併症管理料	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・がん患者指導管理料イ	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・がん患者指導管理料ロ	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・がん患者指導管理料ハ	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・がん患者指導管理料ニ	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・外来緩和ケア管理料	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腎代替療法指導管理料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・一般不妊治療管理料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・生殖補助医療管理料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)
・二次性骨折予防継続管理料1	・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
・二次性骨折予防継続管理料3	・胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・下肢創傷処置管理料	・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)

・院内トリアージ実施料	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来放射線照射診療料	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・連携充実加算	・胸腔鏡下弁形成術
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・経カテーテル大動脈弁置換術
・ニコチン依存症管理料	・胸腔鏡下弁置換術
・がん治療連携計画策定料	・経皮的僧帽弁クリップ術
・肝炎インターフェロン治療計画料	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・経皮的中隔心筋焼灼術
・薬剤管理指導料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・医療機器安全管理料2	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・精神科退院時共同指導料2	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・救急患者連携搬送料	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・在宅酸素療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)

<ul style="list-style-type: none"> ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・経皮的下肢動脈形成術
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
<ul style="list-style-type: none"> ・染色体検査の注2 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
<ul style="list-style-type: none"> ・骨髄微小残存病変量測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
<ul style="list-style-type: none"> ・BRCA1/2遺伝子検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノムプロファイリング検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・先天性代謝異常症検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 	<ul style="list-style-type: none"> ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
<ul style="list-style-type: none"> ・検体検査管理加算(I) 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・検体検査管理加算(IV) 	<ul style="list-style-type: none"> ・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準検査管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・体外衝撃波胆石破碎術
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下肝切除術
<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・体外衝撃波膵石破碎術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・終夜睡眠ポリグラフィ(安全精度管理下で行うもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳波検査判断料1	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・小児食物アレルギー負荷検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・内服・点滴誘発試験	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・経頸静脈的肝生検	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術支援機器を用いる場合)

・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下膀胱尿管逆流手術(膀胱外アプローチ)
・CT撮影及びMRI撮影	・尿道狭窄グラフト再建術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・人工尿道括約筋植込・置換術
・冠動脈CT撮影加算	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・心臓MRI撮影加算	・精巣温存手術
・乳房MRI撮影加算	・精巣内精子採取術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・全身MRI撮影加算	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・肝エラストグラフィ加算	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術

・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・体外式膜型人工肺管理料
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
・がん患者リハビリテーション料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・リンパ浮腫複合的治療料	・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)
・経頭蓋磁気刺激療法	・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
・児童思春期精神科専門管理加算	・輸血管管理料Ⅰ
・認知療法・認知行動療法1	・輸血適正使用加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・医療保護入院等診療料	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・麻酔管理料(Ⅰ)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・周術期薬剤管理加算
・人工腎臓	・放射線治療専任加算
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・外来放射線治療加算
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・高エネルギー放射線治療
・手術用顕微鏡加算	・1回線量増加加算

・センチネルリンパ節加算	・強度変調放射線治療 (IMRT)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の「注」に掲げる処理骨再建加算	・画像誘導放射線治療 (IGRT)
・組織拡張器による再建手術 (乳房 (再建手術) の場合に限る)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・骨移植術 (軟骨移植術を含む。) (同種骨移植 (非生体) (同種骨移植 (特殊なものに限る。)))	・定位放射線治療
・骨移植術 (軟骨移植術を含む) (自家培養軟骨移植術に限る)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・後縦靭帯骨化症手術 (前方進入によるもの)	・画像誘導密封小線源治療加算
・椎間板内酵素注入療法	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腫瘍脊椎骨全摘術	・病理診断管理加算2
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
・脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む) 及び脳刺激装置交換術	・精密触覚機能検査
・癒着性脊髄くも膜炎手術 (脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・歯科治療総合医療管理料 (I) 及び (II)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・歯科口腔リハビリテーション料2
・舌下神経電気刺激装置植込術	・経頭蓋磁気刺激療法
・緑内障手術 [緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの)]	・手術用顕微鏡加算
・緑内障手術 [流出路再建術 (眼内法)] 及び [水晶体再建術 併用眼内ドレーン挿入術]	・CAD/CAM冠

<ul style="list-style-type: none"> ・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工加算1及び2
<ul style="list-style-type: none"> ・毛様体光凝固術 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
<ul style="list-style-type: none"> ・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士連携加算2
<ul style="list-style-type: none"> ・網膜再建術 	<ul style="list-style-type: none"> ・顎関節人工関節全置換術
<ul style="list-style-type: none"> ・植込型補導補聴器(直接振動型)植込術 	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
<ul style="list-style-type: none"> ・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウン・ブリッジ維持管理料
<ul style="list-style-type: none"> ・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術 	<ul style="list-style-type: none"> ・MRI対応植込み型デバイス患者のMRI検査
<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底覚醒、再建を伴うもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法(令和4年度診療報酬改定)	・
・流産検体を用いた染色体検査(令和4年度診療報酬改定)	・
・腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術(令和6年度診療報酬改定)	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<input checked="" type="radio"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月4回程度	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	16
	剖検率(%)	3.2

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
第Ⅱ相医師主導治験の実施に向けた突発性全身性毛細血管漏出症候群(Clarkson病)のガイドライン作成と疾患レジストリ構築	兼松孝好	総合診療科・総合内科	¥3,990,000	補	厚生労働省
総合診療専門医養成プログラムにおけるビデオビューを用いた教育システムの構築	後藤道子	地域医療学	¥3,300,000	補	文部科学省
3次元加速度センサーの開発による高齢者が自己評価できる転倒予防プログラムの構築	赤津裕康	総合診療科・総合内科	¥1,500,000	補	文部科学省
プロバイオティクス摂取による認知症患者の病態軽減効果に関する試験-プラセボ対象探索的二重盲検試験	赤津裕康	総合診療科・総合内科	¥19,130,435	委	森永乳業(株)
食道表在癌の最適な治療選択のための革新的血清バイオマーカーの検証	志村 貴也	消化器内科	¥1,000,000	補	日本消化器病学会
慢性咳嗽新規治療薬の効果予測因子解析:難治化病態の多様性の解明へ向けて	新実 彰男	呼吸器・アレルギー内科	¥1,690,000	補	文部科学省
ヨードの代謝経路に着目した肺癌免疫チェックポイント阻害薬の新たな治療戦略の解明	福田 悟史	呼吸器・アレルギー内科	¥1,820,000	補	文部科学省
カプサイシン咳感受性を基軸としたCOPD患者の入院加療に関わるリスク因子の検討	福光 研介	呼吸器・アレルギー内科	¥390,000	補	文部科学省
多機能性T細胞を標的とした免疫学的寛解治療法の確立	前田 伸治	リウマチ・膠原病内科	¥780,000	補	文部科学省
ヒト化マウスモデルを用いた急性肺傷害における新規治療ターゲットの探求	爲近 真也	リウマチ・膠原病内科	¥2,340,000	補	文部科学省

包括的心エコー図検査による早期左室駆出率保持型心不全診断手法の確立	瀬尾 由広	循環器内科	¥4,160,000	補	文部科学省
PETを用いた心房細動併存心不全における心臓交換神経β受容体密度の影響の解明	後藤 利彦	循環器内科	¥4,030,000	補	文部科学省
潜在的に悪化する左室拡張障害を心臓MRIによるT1 mapping解析で検出する	北田 修一	循環器内科	¥4,030,000	補	文部科学省
人工知能を応用した精度の高い運動負荷心電図自動判読スクリーニングシステムの開発	伊藤 剛	循環器内科	¥4,420,000	補	文部科学省
重症心不全における心臓再同期療法の三次元マッピング法を用いた最適化についての検討	森 賢人	循環器内科	¥4,420,000	補	文部科学省
微小血管狭心症に対する非侵襲的診断法の確立と効果的治療法の探索	横井 雅史	循環器内科	¥4,030,000	補	文部科学省
心電図を用いたディープラーニングによるアントラサイクリン心筋症発症予測AIの構築	山本 惇貴	循環器内科	¥4,030,000	補	文部科学省
アミロイドーシスに関する調査研究	飯田 真介	血液・腫瘍内科	¥400,000	補	厚生労働省
リキッドバイオプシーを用いた多発性骨髄腫の病態予測ゲノムバイオマーカーの探索研究	飯田 真介	血液・腫瘍内科	¥1,430,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	飯田 真介	血液・腫瘍内科	¥520,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多発性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確率とバイオマーカーの探索研究	飯田 真介	血液・腫瘍内科	¥1,200,000	委	国立がん研究センター

血清オミックス解析を中心とした多発性骨髄腫の治療薬レナリドの感受性因子の探索	李 政樹	血液・腫瘍内科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
多発性骨髄腫における抗腫瘍免疫回避の機序解明を目的とした血漿の網羅的解析	李 政樹	血液・腫瘍内科	¥1,300,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
血清中cell free DNAを用いた悪性リンパ腫の中樞神経再発リスクの研究	鈴木 智貴	血液・腫瘍内科	¥390,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
エンハンサープロファイリングによる造血器腫瘍の分子病態理解と治療法の開発	三田 貴臣	血液・腫瘍内科	¥61,620,000	補	独立行政法人 日本学術振興会
パーキンソン病に伴う認知症の早期診断モデル構築と個別化医療への展開	打田佑人	脳神経内科	¥910,000	補	文部科学省
パーキンソン病類縁疾患脳でのドパミン神経系変性過程の解明と診断マーカーへの応用	池田知雅	脳神経内科	¥780,000	補	文部科学省
HCNP投与によるコリン作動性神経賦活を介したアルツハイマー型認知症治療の開発	間所佑太	脳神経内科	¥2,470,000	補	文部科学省
HCNPはアルツハイマー病理存在下での認知予備能の要因となるか	佐藤豊大	脳神経内科	¥780,000	補	文部科学省
尿細管に着目した腫瘍腎臓病学	濱野高行	腎臓内科	¥4,160,000	補	文部科学省 科研費
クエン酸第二鉄水和物による心不全改善効果	村島美穂	腎臓内科	¥1,000,000	補	鈴木謙三記念医科学応用研究財団
心臓血管外科で手術を受けた患者の貧血の改善と腎容積	村島美穂	腎臓内科	¥700,000	補	日本腎臓財団

急性腎障害後の予後予測因子に関する前向き研究	村島美穂	腎臓内科	¥4,420,000	補	文部科学省科研費
腎性貧血治療薬としてのSGLT2阻害薬の可能性	小野水面	腎臓内科	¥4,550,000	補	文部科学省科研費
膵癌における新規分子標的薬の開発を目指した、化学放射線耐性メカニズムの解明	松尾 洋一	消化器外科	¥5,000,000	補	日本学術振興会
大腸癌に切り込む事で生じる腫瘍学的な変化の解明と臨床への応用	牛込 創	消化器外科	¥900,000	補	日本学術振興会
癌関連線維芽細胞とChitinase3-like1が関与した大腸癌進展機序の解明	渡部 かをり	消化器外科	¥900,000	補	日本学術振興会
臨床応用を目指した放射線耐性膵癌のCXCL12/CXCR4シグナルの機能解析	今藤 裕之	消化器外科	¥1,000,000	補	日本学術振興会
細胞周期DNA修復からみた5-FU抵抗性大腸癌の治療強化法とターゲット蛋白の同定	鈴木 卓弥	消化器外科	¥600,000	補	日本学術振興会
ゲムシタピン耐性膵がんにおけるZerumboneの抗腫瘍効果の解明	社本 智也	消化器外科	¥1,200,000	補	日本学術振興会
トリフルリジン耐性大腸がんに対しアポトーシス関連因子をターゲットとした治療開発	前田 祐三	消化器外科	¥1,100,000	補	日本学術振興会
手術支援ロボットにおける眼球・腕運動の協調制御解明とトレーニング法の開発	瀧口 修司	消化器外科	¥2,200,000	補	日本学術振興会
抗癌剤耐性膵癌におけるGirdinの機能解析と新規治療薬への応用	林 祐一	消化器外科	¥1,100,000	補	日本学術振興会

熟練消化器外科医の眼球運動に着目した新しい腹腔鏡手術教育システムの確率	伊藤 直	消化器外科	¥1,000,000	補	大樹生命厚生財団
新規治療薬の開発を目指した、抗癌剤耐性膀胱癌におけるIntegrin-linked kinase(ILK)の機能解析	村瀬 寛倫	消化器外科	¥1,000,000	補	大阪難病研究財団
3DprintingやCadaverを用いた肺癌に対する高難度手術トレーニングシステムの構築	横田 圭右	呼吸器外科	¥4,700,000	補	文部科学省
血流解析を基軸とした包括的成人先天性心臓外科治療戦略の構築	板谷慶一	心臓血管外科	¥1,690,000	補	文部科学省
アミノ酸トランスポーターを標的としたホルモン抵抗性乳がんに対する新規治療法の開発	鰐淵友美	乳腺外科	¥2,210,000	補	文部科学省
メモリーT細胞を用いた乳癌の新規治療戦略:免疫記憶を規定する因子の同定と臨床応用	遠山竜也	乳腺外科	¥1,170,000	補	文部科学省
CDK4/6阻害薬によるネオアンチゲン産生を利用した新規乳がんワクチンの開発	寺田 満雄	乳腺外科	¥520,000	補	文部科学省
凍結免疫療法を用いた転移性骨腫瘍の治療戦略	村上英樹	整形外科	¥910,000	補	文部科学省
RA関節破壊の制圧に向けた、新規治療ターゲットとしてのグリオスタチンの可能性	川口洋平	整形外科	¥800,000	補	文部科学省
「アドヒアランス」を焦点とした慢性腰痛患者への効果的な運動療法の新たな治療戦略	八木清	整形外科	¥500,000	補	文部科学省
不育症・ヒト生殖メカニズム解明のための共同研究拠点	杉浦真弓	産科婦人科	¥14,175,000	補	文部科学省

Super流産の原因遺伝子の同定と胎児染色体正常原因不明習慣流産の病態解明	杉浦真弓	産科婦人科	¥3,900,000	補	文部科学省
均衡型染色体相互転座を有する不育症患者における染色体交互分離の予測因子の探索	佐藤 剛	産科婦人科	¥1,430,000	補	文部科学省
胎生期形態異常における妊娠維持機構の破綻による流産機序の解明と着床前診断への応用	鈴木伸宏	臨床遺伝医療部・産科婦人科	¥1,170,000	補	文部科学省
インスリン応答に着目した子宮内膜・脱落膜の機能解明による不育症の新規治療戦略	後藤志信	臨床遺伝医療部・産科婦人科	¥1,170,000	補	文部科学省
不育症女性に対する認知行動療法アプリプログラムの無作為割付試験による有効性の検証	小笠原 桜	産科婦人科	¥1,560,000	補	文部科学省
ゲノムワイド関連解析による原因不明不育症の病因解明とライフプラン設計への応用	矢野好隆	産科婦人科	¥1,820,000	補	文部科学省
Schaaf-Yang症候群の診療および遺伝学的診断ガイドラインの作成	齋藤伸治	小児科	¥2,990,000	補	厚生労働省
Ritscher-Schinzel症候群の病態解明と治療法開発:膜蛋白リサイクル機構の破綻による疾患メカニズムの統合的理解	齋藤伸治	小児科	¥13,000,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳オルガノイドを用いた巨脳症発症メカニズムの解明	齋藤伸治	小児科	¥1,600,000	補	文科省科研費
新生児の痛み・苦痛を客観定量する簡便なモニタリング法の確立	岩田欧介	小児科	¥6,500,000	補	国立研究開発法人科学技術振興機構
新生児における痛みの定量化研究	岩田欧介	小児科	¥4,810,000	補	国立研究開発法人科学技術振興機構

新生児低酸素性虚血性脳症の早期重症度診断法の開発	岩田欧介	小児科	¥325,000	補	国立研究開発法人 国立精神・ 神経医療 研究セン ター
母親の録音言語は早産児の言語発達を改善するか？	岩田欧介	小児科	¥1,850,000	補	文科省科 研費
新たな複雑系データのための関数データ解析手法の開発と適用	岩田欧介	小児科	¥300,000	補	文科省科 研費
低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究	岩田幸子	小児科	¥300,000	補	厚生労働 科学研究 費
胃食道逆流に注目した牛乳モデルアレルギーマウスの免疫機序の解明	野村孝泰	小児科	¥1,680,000	補	公益財団 法人 ニッ ポンハム食 の未来財 団
我が国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する大規模調査研究	亀井美智	小児科	¥55,855	補	特定非営 利活動法 人日本小 児がん研 究グループ
ヨードトランスポーターSLC26A7から導く甲状腺ヨード動態の全容解明	青山幸平	小児科	¥1,400,000	補	文科省科 研費
先天性心疾患に伴う肺血管病に対する治療薬の開発	篠原 務	小児科	¥1,500,000	補	公益財団 法人 川野 小児医学 奨学財団
早産によるニューロン新生低下メカニズムの解明と霊長類モデルを用いた治療法の開発	川瀬恒哉	小児科	¥1,100,000	補	文科省科 研費
ヒト化マウスによるSchaaf-Yang症候群モデル動物作成とアンチセンス核酸治療	家田大輔	小児科	¥2,866,010	補	文科省科 研費
進行性家族性肝内胆汁うっ滞症、アラジール症候群の診療ガイドライン作成を見据えた現行レジストリの拡充と研究シーズの創生	戸川貴夫	小児科	¥1,300,000	補	国立大学 法人東京 大学

進行性家族性肝内胆汁うっ滞症 I 型の救命に資する肝保護療法の実用化研究	戸川貴夫	小児科	¥3,510,000	補	国立大学 法人東京 大学
エンドソームの膜蛋白輸送に着目した3C症候群の病態解明	加藤耕治	小児科	¥2,452,864	補	文科省科 研費
LDL受容体ファミリー蛋白に着目したエンドソーム機能異常による新規疾患の病態理解	加藤耕治	小児科	¥2,652,480	補	文科省科 研費
エンドソームの膜蛋白輸送に関連する新規分子・新規遺伝子の同定による疾患	加藤耕治	小児科	¥11,800,000	補	文科省科 研費
エンドソームの膜蛋白輸送に着目した3C症候群の病態解明	加藤耕治	小児科	¥2,665,260	補	文科省科 研費
神経幹細胞増幅を促すミトコンドリア脂質代謝とその破綻による脳形成異常機構の解明	中村勇治	小児科	¥1,800,000	補	文科省科 研費
自閉スペクトラム症の新規評価法の開発：視覚刺激に対する情動スペクトラムの評価	大橋 圭	小児科	¥2,843,970	補	文科省科 研費
先進の近赤外線分光法を用いた新生児脳障害のリアルタイム評価法の確立	津田兼之介	小児科	¥500,000	補	公益財団 法人 日東 学術振興 財団
先進の近赤外線分光法を用いた新生児脳障害のリアルタイム評価法の確立	津田兼之介	小児科	¥1,400,000	補	公益財団 法人 母子 健康協会
モデルマウスおよび甲状腺オルガノイドを用いたヨードトランスポーターの制御機構の解明	吉田あや	小児科	¥1,400,000	補	一般社団 法人 日本 小児内分泌
加齢黄斑変性病態における肥満細胞・マクロファージの役割の解明	安川 力	眼科	¥5,980,000	補	独立行政 法人 日本 学術振興 会

網膜静脈閉塞症における虚血の関与解明と臨床への応用	平野 佳男	眼科	¥4,160,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
加齢黄斑変性における「網膜色素上皮-ブ ルッフ膜」メンテナンスの解明	加藤 亜紀	眼科	¥4,160,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
ケモカイン受容体を標的とした萎縮型加齢 黄斑変性制御機構の解明と新規治療法の 開発	平原修一郎	眼科	¥3,900,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
滲出型加齢黄斑変性に対する脈絡膜マス ト細胞の関与の解明と臨床への応用	小椋俊太郎	眼科	¥2,157,985	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
VEGF阻害薬が無効な糖尿病黄斑浮腫の バイオマーカーの確立および新規治療開 発	加藤 房枝	眼科	¥1,560,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
眼科画像のAI診断支援とデータ転送シス テムによる健診及び遠隔医療への可能性 の探索	木村雅代	眼科	¥1,690,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
マクロファージを標的とした抗網膜線維科 療法の開発	植村明嘉	眼科	¥5,590,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
増殖前の未熟児網膜症をターゲットとした 組み合わせサイトカインによる新規治療の 探索	中沢陽子	眼科	¥3,120,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
糖尿病網膜症における新規治療標的の提 唱	小椋俊太郎	眼科	¥2,658,595	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
眼底自発蛍光を用いたレーザー光凝固の 癒痕形成過程を指標とした効果判定基準 の確立	野崎実穂	眼科	¥4,290,000	補	独立行政 法人 日 本学術振 興会
ウイルスに起因する急性聴平衡覚障害の 包括的病態解明と新規治療への応用	岩崎 真一	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	¥2,730,000	補	文部科学 省

痙攣性発声障害の疾患レジストリを活用した診療ガイドライン作成研究	讃岐 徹治	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥3,478,000	補	厚生労働省
チタンブリッジ手術を用いた痙攣性発声障害に対する国際的新規治療戦略の開発	讃岐 徹治	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥12,610,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
個別化医療に向けた腫瘍溶解ウイルス療法の開発	江崎 伸一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥2,600,000	補	文部科学省
概日リズムを利用した収容溶解ウイルス療法の増強効果	江崎 伸一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥250,000	補	公益財団法人 愛知県がん研究振興会
経皮的電気刺激による脳可塑性の誘導を利用したPPPDに対する新規治療の開発	蒲谷 嘉代子	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥2,600,000	補	文部科学省
細胞表面へのCTLA-4発現に着目した制御性T細胞を標的とする頭頸部癌治療の開発	的場 拓磨	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥910,000	補	文部科学省
内耳におけるカルシウム恒常性の維持機構に関与する分子機構の解明	南方 寿哉	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥780,000	補	文部科学省
頭頸部癌の低酸素環境適応機構の解明と新規治療標的の同定	村嶋 明大	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥1,560,000	補	文部科学省
日本人小児睡眠時無呼吸治療に関わる身体発育	有馬 菜千枝	耳鼻咽喉・頭頸部外科	¥650,000	補	文部科学省
オールジャパンコホート連携による大規模乾癬ゲノム・臨床情報の構築	森田明理	皮膚科	¥2,000,000	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
紫外線照射による制御性T細胞の誘導と解析—皮膚病変のリキッドバイオプシーの開発	森田明理	皮膚科	¥2,000,000	補	文部科学省

進行性悪性黒色腫治療における抗PD-1抗体とのTM5614の安全性・有効性を検討する第Ⅱ相試験	加藤裕史	皮膚科	¥1,500,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
抗原特異的光免疫を誘導する最適な波長特性の研究	益田	皮膚科	¥1,800,000	補	文部科学省
尿路結石の新規溶解療法の創出に向けたマクロファージ機能制御法の統合的開発	岡田 淳志	泌尿器科	¥14,500,000	補	文部科学省
酸化ストレスに誘導されるHIFをターゲットとした尿路結石症予防法の開発	戸澤 啓一	泌尿器科	¥3,000,000	補	文部科学省
人工知能技術を活用した尿路結石の発症予測モデルの構築	安藤 亮介	泌尿器科	¥3,000,000	補	文部科学省
マイクロバブル・ナノ粒子が誘導する結晶貪食Mφを利用した尿路結石の溶解治療の開発	田口 和己	泌尿器科	¥3,700,000	補	文部科学省
磁性ナノ粒子による転移性去勢抵抗性前立腺癌の微小転移巣検出および新規治療法の確立	永井 隆	泌尿器科	¥10,800,000	補	文部科学省
精巣腫瘍におけるNCL1の有効性とLSD1を中心とした分子病理学的機序の解明	清水 伸彦	泌尿器科	¥2,200,000	補	文部科学省
ルテオリンによるmiRNA制御を介した増殖抑制メカニズムに基づいた新たな前立腺癌進展予防法の開発	内木 拓	泌尿器科	¥1,000,000	補	公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金
天然フラボノイドによるマイクロRNA制御を介した増殖抑制メカニズムに着目した新たな前立腺癌進展予防法の開発	内木 拓	泌尿器科	¥2,000,000	補	公益財団法人日東学術振興財団
Spatial single-cell RNA sequence を用いたオートファジー依存結石抑制遺伝子の同定	海野 怜	泌尿器科	¥1,000,000	補	一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金

腎マクロファージ活性を応用した尿路結石溶解薬に向けた基礎的研究	岡田 淳志	泌尿器科	¥2,000,000	補	公益財団法人豊秋奨学会
天然フラボノイドによるmiRNAを介した進展抑制機構に基づいた前立腺癌への予防介入研究	内木 拓	泌尿器科	¥500,000	補	一般財団法人愛知健康増進財団
Spatial single-cell RNA sequenceを用いたオートファジー依存結石抑制遺伝子の同定	海野 怜	泌尿器科	¥2,000,000	補	公益財団法人堀科学芸術振興財団
精子幹細胞分化に関わるimmature Sertoli細胞のバイオマーカー確立と生殖医療への展開	水野 健太郎	小児泌尿器科	¥14,100,000	補	文部科学省
精子幹細胞の分化・増殖にかかわる甲状腺機能の役割に関する包括的研究	林 祐太郎	小児泌尿器科	¥1,100,000	補	文部科学省
精子幹細胞分化に関わるimmature Sertoli細胞のバイオマーカー確立と生殖医療への展開	水野 健太郎	小児泌尿器科	¥2,900,000	補	文部科学省
精子形成障害におけるエピゲノム因子の解明による男性不妊症に対する新規治療薬の確立	西尾 英紀	小児泌尿器科	¥1,000,000	補	文部科学省
乳がん患者の乳がん切除後疼痛症候群に対するスマホ精神療法の開発：革新的な分散型基盤を用いた多機関共同無作為割付比較試験	明智 龍男	精神科	¥11,350,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
サイバー空間とフィジカル空間を融合させた近未来緩和ケアシステムの開発研究	明智 龍男	精神科	¥4,200,000	補	文部科学省
がん患者の不安、抑うつに対するスマートフォン精神療法の有効性：無作為割付比較試験	明智 龍男	精神科	¥3,800,000	補	文部科学省
大人の自閉スペクトラム症への個別化医療：スマートフォンを用いた問題解決療法の実現	山田 敦朗	こころの発達医学寄附講座	¥900,000	補	文部科学省

神経性やせ症に対するモバイル家族介入の開発:AIを駆使した家族のエンパワメント	白石 直	精神科	¥1,200,000	補	文部科学省
がん患者の遺族の死別前後の苦痛を軽減するためのICT技術を応用した看護ケアの開発	内田 恵	緩和ケアセンター	¥600,000	補	文部科学省
がん治療後も残存する倦怠感と精神心理的苦痛を軽減するためのウェブツールの有用性の検討	内田 恵	緩和ケアセンター	¥250,000	補	愛知県がん研究振興財団
職業性ジストニアの新規治療法の開発と有用性の検証	中口 智博	精神科	¥1,300,000	補	文部科学省
最新の認知行動療法による医師バーンアウト改善プログラムの普及を目指した開発研究	渡辺 孝文	精神科	¥800,000	補	文部科学省
通院眼科じやのがん疼痛セルフマネジメントのための遠隔看護介入プログラムの開発	長谷川 貴昭	緩和ケアセンター	¥800,000	補	文部科学省
過敏性腸症候群に対する心理治療者養成のためのオンライン教育プログラムの開発	菊池 志乃	緩和ケアセンター	¥1,100,000	補	文部科学省
過敏性腸症候群に対するインターネット認知行動療法の有効性および費用対効果検証	菊池 志乃	緩和ケアセンター	¥1,500,000	補	文部科学省
過敏性腸症候群に対するオンライン心理療法	菊池 志乃	緩和ケアセンター	¥3,000,000	補	公益財団法人KDDI財団
致死性疾患の術後遷延痛と再発不安に対する「オンライン集団ACTプログラム」の開発	酒井 美枝	精神科	¥600,000	補	文部科学省
DECTを用いたヨード成分の定量解析による新たな骨転移診断法の開発	山本 達仁	放射線診断・IVR科	¥910,000	委	文部科学省

次世代CTを用いた肝細胞癌の動注塞栓術における栄養血管の解析システムの開発	大場 翔太	放射線診断・IVR科	4,680,000	補	文部科学省
p16陽性中咽頭癌に関する線量低減に関する研究	喜多 望海	放射線治療科	¥3,000,000	補	文部科学省
血液脳関門の破綻に着目した術後神経認知機能障害の発症機序解明	祖父江 和哉	麻酔科	¥3,300,000	補	文部科学省
脳血流量の変化を指標とした慢性疼痛患者の脳機能評価	杉浦 健之	麻酔科	¥600,000	補	文部科学省
海馬歯状回における神経細胞の新生低下に注目した慢性疼痛の発症機序解明	青木 優祐	麻酔科	¥1,200,000	補	文部科学省
脳保護因子エリスロポエチンとミクログリア活性化制御に注目した新規脳低温療法	田村 哲也	麻酔科	¥900,000	補	文部科学省
神経障害性疼痛モデルを用いた末梢神経シュワン細胞の痛みへの関与の解析	加古 英介	麻酔科	¥900,000	補	文部科学省
情報伝達に重要な γ 帯域脳活動を生じる脳領域間の連関に着目した痛み認知機構の解明	田中 基	麻酔科	¥1,600,000	補	文部科学省
慢性疼痛の発症に関与する情動系回路の解明	徐 民恵	麻酔科	¥1,500,000	補	文部科学省
人工冬眠を用いた新規脳保護療法の開発に向けた基礎的研究	太田 晴子	麻酔科	¥1,400,000	補	文部科学省
赤外線瞳孔記録計を用いた「児のせん妄診断スケール」の開発と有用性の検証	上村 友二	麻酔科	¥1,400,000	補	文部科学省

情動に関与する神経回路の持続的な活性化に着目した慢性疼痛の発症機序の解明	加藤 利奈	麻酔科	¥1,000,000	補	文部科学省
「処置に伴う鎮痛・鎮静」の看護のための疫学調査に基づく教育プログラムの開発	辻 達也	麻酔科	¥1,600,000	補	文部科学省
脳領域間の情報伝達機構の異常に着目した術後せん妄の発症機序の解明	志田 恭子	麻酔科	¥1,500,000	補	文部科学省
いたみセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	杉浦 健之	麻酔科	¥400,000	補	厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	杉浦 健之	麻酔科	¥2,000,000	補	厚生労働省
低血圧サブタイプに着目した急性腎障害予防のための術中循環管理法の開発	中西 俊之	麻酔科	¥2,000,000	補	公益財団法人日東学術振興財団
鎮痛の自動化に向けた術後の突出痛予測AIの開発	中西 俊之	麻酔科	¥1,745,000	補	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
頸動脈石灰化粥腫安定機構の多角的エピジェネティック制御と分子間クロストークの探究	片野広之	脳神経外科	¥1,100,000	補	文部科学省
空間活用能を装備した新規の内視鏡flexible-rigid scopeの開発	谷川元紀	脳神経外科	¥600,000	補	文部科学省
脳脊髄液の新規流体解析を用いた正常圧水頭症の病態解明	山田茂樹	脳神経外科	¥850,000	補	文部科学省
安静時fMRIを用いたiNPH診療の新たなイメージングバイオマーカーの探求	山田紘史	脳神経外科	¥900,000	補	文部科学省

スーパーコンピュータ「富岳」成果創出加速プログラム(次世代超高速電子計算機システム利用の成果促進)	山田茂樹	脳神経外科	¥2,500,000	補	文部科学省
食品基礎科学を応用した新規咀嚼機能評価法の開発とオーラルフレイルへの波及効果	渋谷 恭之	歯科口腔外科	¥780,000	補	文部科学省
活性フラボノイドを用いた口腔潜在的悪性疾患に対する治療薬の開発	加藤 伸一郎	歯科口腔外科	¥520,000	補	文部科学省
チタン上のプロテオグリカン層がオッセointegrasyon獲得に果たす役割の解明	土屋 周平	歯科口腔外科	¥1,430,000	補	文部科学省
最適化したエクソソームによる放射線顎骨壊死に対する治療法の開発	岡部一登	歯科口腔外科	¥1,560,000	補	文部科学省
好中球細胞外トラップNETsと低酸素誘導性因子HIFに着目した敗血症の病態解明	下村泰代	救急科	¥2,575,436	補	文部科学省
NETs形成に着目したcall-19肺炎の新しい重症度指標	松居亮平	救急科	¥500,000	補	文部科学省
大腿骨近位部骨折患者の二次性骨折を予防する医療システムの構築	黒柳 元	リハビリテーション科	¥1,300,000	補	公益財団法人杉浦記念財団

計172件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takaya Shimura, Hiroyasu Iwasaki, Takanori Ozeki 他	消化器内科	A prospective cohort study of a new electro-surgical unit for preventing colorectal post-endoscopic submucosal dissection coagulation syndrome.	J Gastroenterol Hepatol. 2024. Mar;39(3):473-479.	Original Article
2	Konomu Uno, Takaya Shimura, Shingo Inaguma 他	消化器内科	Clinical impact of proton pump inhibitor and potassium-competitive acid blocker for predicting the curability of endoscopic resection in ulcerative early gastric cancer.	Digestion 2024. 105(3):192-200	Original Article
3	Shigeki Fukusada, Takaya Shimura, Makoto Natsume 他	消化器内科	Osteopontin secreted from obese adipocytes enhances angiogenesis and promotes progression of pancreatic ductal adenocarcinoma in obesity.	Cell Oncol (Dordr). 2024. Feb;47(1):229-244.	Original Article
4	Ozeki K Nishigaki R Kanno T,	消化器代謝内科学	Ulcerative Colitis with Oral Extension of Squamous Epithelium	Intern Med.	Case report
5	Asonuma K Ozeki K (1st equal contribute) Yamazaki H,	消化器代謝内科学	Immunomodulators after the discontinuation of anti-tumor necrosis factor- α antibody treatment and relapse in ulcerative colitis: A multicenter cohort study	J Gastroenterol Hepatol.	Original Article
6	Makiko Sasaki, Mamoru Tanaka, Yuki Kojima 他	消化器代謝内科学	Metal-conjugated Maltotriose Chlorins as Novel Photosensitizers for Photodynamic Therapy	Anticancer Research	Original Article
7	Yuki Kojima, Mamoru Tanaka, Makiko Sasaki, 他	消化器代謝内科学	Induction of ferroptosis by photodynamic therapy and enhancement of antitumor effect with ferroptosis inducers	Journal of Gastroenterology	Original Article
8	Naomi Sugimura, Eiji Kubota, Yoshinori Mori, 他	消化器代謝内科学	Reovirus combined with a STING agonist enhances anti-tumor immunity in a mouse model of colorectal cancer	Cancer Immunology, Immunotherapy	Original Article
9	Kanemitsu Y, Kurokawa R, Akamatsu T	呼吸器・アレルギー内科	Decreased capsaicin cough reflex sensitivity predicts hospitalization due to COPD	BMJ Open Respir Res. 2023 Jan;10(1):e001283	Original Article
10	Tajiri T, Suzuki M, Kutsuna T	呼吸器・アレルギー内科	Specific IgE Response and Omalizumab Responsiveness in Severe Allergic Asthma.	J Asthma Allergy. 2023 Jan 22;16:149-157	Original Article
11	Niimi A, Kanemitsu Y, Tajiri T	呼吸器・アレルギー内科	Real-life effectiveness of indacaterol/glycopyrronium/mometasone for symptomatic relief of cough after switching from inhaled corticosteroid/long-acting β 2-agonist therapy in patients with asthma: REACH study design.	ERJ Open Res. 2023 Mar 27;9(2):00452-2022	Original Article

12	Niimi A, Fukunaga K, Taniguchi M	呼吸器・アレルギー内科	Executive summary: Japanese guidelines for adult asthma (JGL) 2021	Allergol Int. 2023 Apr;72(2):207-226	Original Article
13	Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Kurokawa R	呼吸器・アレルギー内科	Tiotropium for refractory cough in asthma via cough reflex sensitivity: A randomized, parallel, open-label trial.	Ann Allergy Asthma Immunol. 2023 Jul;131(1):59-68.e3	Original Article
14	Fukumitsu K, Ning Y, Kanemitsu Y	呼吸器・アレルギー内科	Tracheal Glomus Tumor Complicated with Asthma Exacerbation in a Pregnant Woman.	Intern Med. 2023 Jul 15;62(14):2123-2128	Original Article
15	Ito K, Kanemitsu Y, Fukumitsu K	呼吸器・アレルギー内科	Targeting the interleukin-5 pathway improves cough hypersensitivity in patients with severe uncontrolled asthma.	Ann Allergy Asthma Immunol. 2023 Aug;131(2):203-208.e1	Original Article
16	Nishiyama H, Kanemitsu Y, Hara J	呼吸器・アレルギー内科	Bronchial thermoplasty improves cough hypersensitivity and cough in severe asthmatics.	Respir Med. 2023 Sep;216:107303.	Original Article
17	Tamechika SY, Ohmura SI, Maeda S	呼吸器・アレルギー内科	Efficacy of denosumab on bisphosphonate-treated osteoporosis and osteopenia in systemic rheumatic disease patients receiving glucocorticoids.	J Bone Miner Metab. 2023 Mar;41(2):203-211	Original Article
18	Maeda S, Hashimoto H, Maeda T	呼吸器・アレルギー内科	A. High-dimensional analysis of T-cell profiling variations following belimumab treatment in systemic lupus erythematosus.	Lupus Sci Med. 2023 Oct;10(2):e000976.	Original Article
19	Shohei Kikuchi, Yoshihiro Seo	循環器内科	Intrarenal Venous Flow as a Mirror of the Impact of Secondary Mitral Regurgitation on Systemic Circulation in Patients Undergoing Mitral Transcatheter Edge-to-Edge Repair	Circ J. 2024 Mar 25;88(4):517-518. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0521. Epub 2023 Aug 10. PMID: 37558467	Original Article
20	Kiyomi Kayama, Takahisa Yamada, Masahiro Seo, Tetsuya Watanabe, Takashi Morita, Masato Kawasaki, Atsushi Kikuchi, Tsutomu Kawai, Jun Nakamura, Masatake Fukunami	循環器内科	The Prognostic Impact of Follow-up Cardiac MIBG Imaging on LV trajectory After Acute Decompensation	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2024 Mar 14;jeae077. doi: 10.1093/ehjci/jeae077 PMID: 38483956	Original Article
21	Takafumi Nakayama, Junki Yamamoto, Toshikazu Ozeki, Shigehiro Tokoroyama, Yoshiko Mori, Mayuko Hori, Makoto Tsujita, Yuichi Shirasawa, Asami Takeda, Chika Kondo, Minako Murata, Shigeru Suzuki, Yuko Kinoshita, Michio Fukuda, Tsuneo Ueki, Noriyuki Ikehara, Masato Sugura, Toshihiko Goto, Hiroya Hashimoto, Kazuhiro Yajima, Shoichi Maruyama, Hiroichi Koyama, Kunio Morozumi, Yoshihiro Seo	循環器内科	Impact of an angulated aorto-septal relationship on cardio-cerebrovascular outcomes in patients undergoing hemodialysis	PLOS ONE. 2024 Feb 23;19(2):e0298637. doi: 10.1371/journal.pone.0298637. eCollection 2024. PMID: 38394305	Original Article
22	Nobuyuki Ohte, Shohei Kikuchi, Noriaki Iwahashi, Yoshiharu Kinugasa, Kaoru Dohi, Hiroyuki Takase, Kumiko Masai, Katsuji Inoue, Takahiro Okumura, Kenta Hachiya, Shuichi Kitada, Yoshihiro Seo	循環器内科	EASY HFpEF investigators Distinctive left ventricular-arterial and right ventricular-pulmonary arterial coupling observed in patients with heart failure and a higher left ventricular ejection fraction range	Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2024 Jan 29;jeae033. doi: 10.1093/ehjci/jeae033. Online ahead of print. PMID: 38284416	Original Article
23	Shohei Kikuchi, Kiyomi Kayama, Yu Kawada, Shuichi Kitada, Yoshihiro Seo	循環器内科	Evaluation of renal circulation in heart failure using superb microvascular imaging, a microvascular flow imaging system	J Med Ultrason (2001). 2024 Jan 18. doi: 10.1007/s10396-023-01397-6. Epub ahead of print. PMID: 38236503	Original Article

24	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Yu Kawada, Tatsuya Mizoguchi, Junki Yamamoto, Kento Mori, Kosuke Nakasuka, Shohei Kikuchi, Hiroshi Fujita, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo	循環器内科	Malondialdehyde-Modified Low-Density Lipoprotein as a Predictor of Major Adverse Limb Events after Endovascular Therapy in Patients with Lower Extremity Arterial Disease	J Atheroscler Thromb. 2023 Nov 1;30(11):1612-1621. doi: 10.5551/jat.64091. Epub 2023 Mar 9. PMID: 36889737	Original Article
25	Yoshihiro Seo	循環器内科	Time to Reconsider Ejection Fraction in Heart Failure: Reclassification Needed Beyond Ejection Fraction.	JACC Asia. 2023 Aug 22;3(5):752-754. doi: 10.1016/j.jacasi.2023.07.001. eCollection 2023 Oct. PMID: 38094993	Original Article
26	Tatsuya Mizoguchi, Tomonori Sugiura, Yu Kawada, Junki Yamamoto, Masashi Yokoi, Kosuke Nakasuka, Kento Mori, Shohei Kikuchi, Tsuyoshi Ito, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo	循環器内科	Association Between Aortic Stiffness and Exercise Tolerance in Patients at the Risk Stage of Heart Failure	Circ J. 2023 Jul 25;87(8):1075-1084. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0772. Epub 2023 Mar 21. PMID: 36948631	Original Article
27	Nobuyuki Ohte, Atsushi Tanaka, Shuichi Kitada, Takahisa Yamada, Kazuo Eguchi, Hiroki Teragawa, Yasuchika Takeishi, Kazuhisa Kodama, Yoshihiro Seo, Koichi Node; CANDLE Trial Investigators.	循環器内科	Influence of left ventricular ejection fraction on the reduction in N-terminal pro-brain natriuretic peptide by canagliflozin in patients with heart failure and type 2 diabetes: A sub analysis of the CANDLE trial.	J Cardiol. 2023 Jun;81(6):508-512. doi: 10.1016/j.jcc.2022.11.012. Epub 2022 Dec 5. PMID: 36481298	Original Article
28	Nobuyuki Ohte, Shohei Kikuchi, Yoshihiro Seo	循環器内科	Cardiac mechanical baseline for heart failure with preserved ejection fraction beyond the underlying aetiology.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2023 Apr 24;24(5):e90. doi: 10.1093/ehjci/jead051. PMID: 36945184	Original Article
29	Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Wataru Suzuki, Junki Yamamoto, Takafumi Nakayama, Taku Ichihashi, Shohei Kikuchi, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo	循環器内科	Hemodialysis-induced Myocardial Stunning with No Obstructive Coronary Artery Disease: Pathophysiological Significance of Coronary Microvascular Dysfunction.	Intern Med. 2023 Dec 4. doi: 10.2169/internalmedicine.2388-23. Online ahead of print. PMID: 38044153	Case report
30	Satoru Sekimoto, Yoshimasa Murakami, Yoshihiro Seo	循環器内科	Atrial echo beats as a novel mechanism of periodic fluctuation in cycle length of atrial tachycardia.	Pacing Clin Electrophysiol. 2023 Sep;46(9):1145-1148. doi: 10.1111/pace.14671. Epub 2023 Mar 6. PMID: 36794306	Case report
31	Asano Arisa, Ri Masaki, Masaki Ayako et al	血液腫瘍内科	Aberrant tryptophan metabolism leads to unfavorable outcomes in lenalidomide-treated myeloma patients.	Hematol Oncol. 2023 Aug	Original Article
32	Hirade, Kentaro, Kusumoto Shigeru, Hashimoto Hiroya et al	血液腫瘍内科	Low-dose fluconazole as a useful and safe prophylactic option in patients receiving allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Cancer Med 2024.Feb	Original Article
33	Iida Shinsuke, Sunami Kazutaka, Mishima Yuko et al.	血液腫瘍内科	Safety, pharmacokinetics, and efficacy of belantamab mafodotin monotherapy in Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma: DREAMM-11.	Int J Hematol. 2023 Nov	Original Article
34	Nakanishi Yoko, Marumo Yoshiaki, Ri Masaki et al.	血液腫瘍内科	Laryngeal edema as a symptom of local cytokine release syndrome after BCMA-targeting CAR-T therapy for relapsed and refractory multiple myeloma.	Int J Hematol. 2023 Nov	Original Article
35	Suzuki Tomotaka, Maruyama Dai, Machida Ryunosuke et al	血液腫瘍内科	Prognostic impact of the UK Myeloma Research Alliance Risk Profile in transplant-ineligible patients with multiple myeloma who received a melphalan, prednisolone, and bortezomib regimen: A supplementary analysis of JCOG1105.	Hematol Oncol. 2023 Aug	Original Article

36	Inoue H, Oomura M, Matsukawa N 他	脳神経内科	Dural Arteriovenous Fistula Mimicking Acute Encephalitis.	Intern Med. 2024 Feb; 63(3): 451-455	Case report
37	Uchida Y, Kan H, Matsukawa N 他	脳神経内科	Relationship between brain iron dynamics and blood-brain barrier function during childhood: a quantitative magnetic resonance imaging study.	Fluids Barriers CNS. 2023 Aug; 20(1): 60	Original Article
38	Uchida Y, Shao X, Matsukawa N 他	脳神経内科	Editorial: Imaging of the blood-brain barrier in Alzheimer's disease and related disorders.	Front Aging Neurosci. 2023 Jul; 15: 1252581	Others
39	Murashima M, Ambe K, Aoki Y, et al.	腎臓内科	Epidemiology and predictors of hyponatremia in a contemporary cohort of patients with malignancy: a retrospective cohort study.	Clin Kidney J. 2023 Aug 10;16(11):2072-2081.	Original Article
40	Murashima M, Hamano T, Abe M, et al.	腎臓内科	Comparable outcomes between a combination of peritoneal dialysis with once-weekly haemodialysis and thrice-weekly haemodialysis: a prospective cohort study.	Nephrol Dial Transplant. 2023 Sep 29;38(10):2143-2151	Original Article
41	Murashima M, Fujii N, Goto S, et al.	腎臓内科	Associations of calcium, phosphate and intact parathyroid hormone levels with mortality, residual kidney function and technical failure among patients on peritoneal dialysis.	Clin Kidney J. 2023 Sep 7;16(11):1957-1964.	Original Article
42	Ueno S, Murashima M, Ogawa R et al.	腎臓内科	The cisplatin-induced acute kidney injury is a novel risk factor for postoperative complications in patients with esophageal cancer: a retrospective cohort study	BMC Surg. 2023 Mar 27;23(1):67	Original Article
43	Shuhei Ueno, Ryo Ogawa, Masaki Saito 他	消化器外科	Benefits of laparoscopic trans-hiatal approach with Heller-Dor surgery in a case of mid-esophageal diverticulum	Asian J Endosc Surg. ;16(2):289-292, 2023 Apr.	Case Report
44	Shinnosuke Harata, Hiroki Takahashi, Nanako Ando 他	消化器外科	Spontaneous regression of advanced transverse colon cancer with deficient mismatch repair: a case report	Surg Case Rep. 2023 Apr 25;9(1):64	Case report
45	Hajime Ushigome, Hiroki Takahashi, Anri Maeda 他	消化器外科	Incomplete lymphatic sealing around the inferior mesenteric artery is a risk factor for chylous ascites in robotic rectal surgery	Asian J Endosc Surg. 2023 Apr;16(2):163-172.	Original Article
46	Sunao Ito, Hiroyuki Sagawa, Seiya Yamamoto 他	消化器外科	Simultaneous robotic distal gastrectomy and distal pancreatectomy: avoiding total gastrectomy using indocyanine green fluorescence imaging	Asian J Endosc Surg.; 16(3):550-553, 2023 Jul	Case Report
47	Mamoru Morimoto Yoichi Matsuo Keisuke Nonoyama 他	消化器外科	Glissonean Pedicle Isolation Focusing on the Laennec's Capsule for Minimally Invasive Anatomical Liver Resection	Journal of personalized Medicine, 2023 Jul 18;13(7):1154.	Original Article
48	Sunao Ito , Hiroyuki Sagawa , Hiroyasu Iwasaki 他	消化器外科	Laparoscopic pancreas-preserving duodenectomy: Minimally invasive surgery for superficial nonampullary duodenal epithelial tumors	Asian J Endosc Surg . 2023 Oct	Case Report

49	Yuichi Hayashi Yoichi Matsuo Yuki Denda 他	消化器外科	Girdin regulates both migration and angiogenesis in pancreatic cancer cell lines	Oncology Report, 2023 Sep;50(3):169.	Original Article
50	Hikomichi Murase Yoichi Matsuo Yuki Denda 他	消化器外科	Accurate intraoperative real-time blood flow assessment of the remnant stomach during robot-assisted distal pancreatectomy with celiac axis resection using indocyanine green fluorescence imaging and da Vinci Firefly technology	Asian Journal of Endoscopic Surgery, 2023 Sep;50(3):164.	Original Article
51	Yuki Denda Yoichi Matsuo Keisuke Nonoyama 他	消化器外科	Simultaneous presentation and resection of esophageal cancer and metastasis to the pancreas: A case report and literature review	Molecular and Clinical Oncology, 2023 Nov 17;20(1):2.	Original Article
52	Yoichi Matsuo	消化器外科	Natural Products and Cancer	Nutrients, 2023 Dec 11;15(24):5064.	Others
53	Sunao Ito , Akira Koshino , Masayuki Komura 他	消化器外科	Characterization of colorectal cancer by hierarchical clustering analyses of five immune cell markers.	Pathol Int. 2024 Jan; 74(1):13-25.	Original article
54	Kaori Watanabe, Hajime Ushigome, Hiroki Takahashi 他	消化器外科	Suctionable gauze ball operated by the console surgeon overcomes wet scenes during robotic rectal surgery	J Anus Rectum Colon . 2024 Jan 25;8(1):43-47.	Original Article
55	Yuki Denda Yoichi Matsuo Saburo Sugita 他	消化器外科	The Natural Product Parthenolide Inhibits Both Angiogenesis and Invasiveness and Improves Gemcitabine Resistance by Suppressing Nuclear Factor κ B Activation in Pancreatic Cancer Cell Lines	nutrients, 2024 Feb 29;16(5):705.	Original Article
56	Sunao Ito, Hiroyuki Sagawa, Kohei Fujita 他	消化器外科	Robotic distal gastrectomy plus spleen-preserving distal pancreatectomy: optimal resection for simultaneous gastric cancer and intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreatic body	Surg Case Rep. 2024 Feb 9;10(1):38.	Case Report
57	Hajime Ushigome,Hiroki Takahashi,Shinnosuke Harata 他	消化器外科	“Role-sharing surgery”: A new surgical education system that gives beginner surgeons more chances to operate while ensuring the surgical quality of robotic surgery	Surg Today . 2024 Mar;54(3):282-287.	Original Article
58	Akihiko Ueda Kenta Saito Hiromichi Murase 他	消化器外科	Robotic resection for splenic artery aneurysm associated with neurofibromatosis type 1: a case report	Journal of Medical Case Reports, 2024 Mar 14;18(1):104.	Original Article
59	Matsui T, Takahashi Y, Nakada T,et al.	呼吸器外科	Thoracoscopic Anatomical Sublobar Resection Including Subsegmentectomy for Non-Small Cell Lung Cancer	World J Surg. 2023 Aug; 47(8):2065-2075	Original Article
60	Matsui T, Takahashi Y, Nakada T,et al.	呼吸器外科	Impact of intrapulmonary tumour location of non-small-cell lung cancer on surgical outcomes for segmentectomy	Eur J Cardiothorac Surg. 2024 Mar; 65(3):eaze036	Original Article
61	Terada M, Ito A, Kikawa Y, Koizumi K 他	乳腺外科	The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for systemic treatment of breast cancer, 2022 edition.	Breast Cancer. 2023 Nov;30(6):872-884.	Original Article

62	Krop IE, Masuda N, Toyama T 他	乳腺外科	Patritumab Deruxtecan (HER3-DXd), a Human Epidermal Growth Factor Receptor 3-Directed Antibody-Drug Conjugate, in Patients With Previously Treated Human Epidermal Growth Factor Receptor 3-Expressing Metastatic Breast Cancer: A Multicenter, Phase I/II Trial.	J Clin Oncol. 2023 Dec 20;41(36):5550-5560	Original Article
63	Ogawa M, Kan H, Toyama T 他	乳腺外科	Three-compartment spectral diffusion analysis for breast cancer magnetic resonance imaging.	Magn Reson Imaging. 2023 Nov;103:179-184.	Original Article
64	Kureyama N, Terada M, Toyama T 他	乳腺外科	Fact-Checking Cancer Information on Social Media in Japan: Retrospective Study Using Twitter.	JMIR Form Res. 2023 Sep 6;7:e49452.	Original Article
65	Iwata H, Yamamoto Y, Toyama T 他	乳腺外科	Phase III study of long-term prognosis of estrogen receptor-positive early breast cancer treated with neoadjuvant endocrine therapy with/without adjuvant chemotherapy.	Breast Cancer Res Treat. 2023 Jun;199(2):231-241.	Original Article
66	Minohara K, Imai M, Toyama T 他	乳腺外科	Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer.	Cancer Sci. 2023 Apr;114(4):1256-1269.	Original Article
67	Kato A, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y 他	乳腺外科	Low TINAGL1 expression is a marker for poor prognosis in breast cancer.	J Cancer Res Clin Oncol. 2023 Jul;149(8):4771-4782.	Original Article
68	Ayaka Isogai, Haruru Kotani, Hiroji Iwata 他	乳腺外科	Single-dose trastuzumab monotherapy achieved pathological complete response (pCR) in a patient with HER2-positive breast cancer: a case report.	Surgical case reports 9(1) 112-112, 2023	Original Article
69	Iesato A, Fushimi A, Terada M 他	乳腺外科	A novel system to provide information via online YouTube videos and an evaluation of current online information about hereditary breast cancer	Breast Cancer. 2023 Nov 23. doi: 10.1007/s12282-023-01512-y.	Original Article
70	Yoshida M, Takenaga T, Chan CK	整形外科	Increased superior translation following multiple simulated anterior dislocations of the shoulder.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 5 : 1963-1969	Original Article
71	Takenaga T, Yoshida M, Chan CK	整形外科	Direction of non-recoverable strain in the glenohumeral capsule following multiple anterior dislocations: Implications for anatomic Bankart repair. Direction of non-recoverable strain in the glenohumeral capsule following multiple anterior dislocations: Implications for anatomic Bankart repair	J Orthop Res 41 : 479-488	Original Article
72	Kuroyanagi G, Hioki T, Matsushima-Nishiwaki R	整形外科	HSP70 inhibitor amplifies the bFGF-induced release of IL-6 in osteoblasts.	Mol Med Rep 28 : 230	Original Article
73	Kuroyanagi G, Hioki T, Tachi J	整形外科	Resveratrol inhibits basic fibroblast growth factor-induced macrophage colony-stimulating factor synthesis via the PI3-kinase/Akt pathway in osteoblasts.	Biosci Biotechnol Biochem 87 : 1462-1469	Original Article
74	Kuroyanagi G, Kamiya N, Yamaguchi R	整形外科	Interleukin-6 receptor blockade improves bone healing following ischemic osteonecrosis in adolescent mice.	Osteoarthr Cartil Open 5 : 100386	Original Article

75	Kuroyanagi G, Hioki T, Tachi J	整形外科	Oncostatin M stimulates prostaglandin D2-induced osteoprotegerin and interleukin-6 synthesis in osteoblasts.	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids 192 : 102575	Original Article
76	Aiba H, Kamei M, Ito Y	整形外科	Outcomes of Window Therapy with Carboplatin and Ifosfamide for Pediatric Osteosarcoma: A Case Series.	Children (Basel) 10 : 736	Case report
77	Sakai H, Watanabe N, Kuroyanagi G	整形外科	Clinical and radiographic outcomes of primary total hip arthroplasty with the revelation hip system using density mapping.	Eur J Orthop Surg Traumatol 33 : 435-440	Original Article
78	Yagi K, Kishima K, Tezuka F	整形外科	Advantages of Revision Transforaminal Full-Endoscopic Spine Surgery in Patients who have Previously Undergone Posterior Spine Surgery.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg 84 : 528-535	Original Article
79	Usami T, Takada N, Nishida K	整形外科	Fixation of intra-articular calcaneal fractures: A comparative study of the postoperative outcome between HA/PPLA screws and locking plates.	Heliyon 9 : e14046 (オンライン)	Original Article
80	Usami T, Takada N, Iwata H	整形外科	A biomechanical analysis of the effect of hydroxyapatite augmentation for trochanteric femoral fractures.	Exp. Ther. Med. 25 : 256	Original Article
81	Goto Y, Kato K, Yagi K	整形外科	Transforming Growth Factor- β Induces Interleukin-6 Secretion from Human Ligamentum Flavum-Derived Cells through Partial Activation of p38 and p44/42 Mitogen-Activated Protein Kinases.	Asian Spine Journal 17 : 997-1003	Original Article
82	Goto S, Ozaki Y, Ozawa F 他	臨床遺伝医療部・産科婦人科	Impaired decidualization and relative increase of PROK1 expression in the decidua of patients with unexplained recurrent pregnancy loss showing insulin resistance.	J Reprod Immunol. 2023 Sep 22; 160: 104155.	Original Article
83	Nishikawa R, Sugiura-Ogasawara M, Ebara 他	産科婦人科	Adverse pregnancy outcomes of cancer survivors and infectious disease in their infants: The Japan Environment and Children's Study.	Oncol Lett. 2023 Jan 30; 25(3) : 100.	Original Article
84	Goto T, Goto S, Ozawa F 他	産科婦人科	The association between chronic deciduitis and recurrent pregnancy loss.	J Reprod Immunol. 2023 Mar; 156: 103824.	Original Article
85	Kenosuke Tsuda, Jun Shibasaki, Akihito Takeuchi 他	小児科	Prolonged requirements for mechanical ventilation and tube feeding support predicted 18-month outcomes for neonatal encephalopathy.	Acta Paediatr. 2023 Apr;112(4):734-741.	Original Article
86	Kyoko Yokoi, Osuke Iwata, Satoru Kobayashi 他	小児科	Intrauterine Inflammation, Excessive Fetal Growth and Respiratory Morbidities in Moderate-To-Late Preterm Neonates	Neonatology. 2024;121(2):258-265.	Original Article
87	Minohara Kiyoshi Imai Masaki, Matoba Takuma 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer.	Cancer Sci . 2023 Apr;114(4):1256-69.	Original Article

88	Kabaya Kayoko, Fukushima Akina, Katsumi Sachiyo 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Presence of corrective saccades in patients with normal vestibulo-ocular reflex gain in video head impulse test.	Front Neurol . 2023 Apr 13;14:1152052.	Original Article
89	Sanuki Tetsuji, Takemoto Naoki.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Comparison of Botulinum Toxin Injections and Type 2 Thyroplasty for Adductor Spasmodic Dysphonia.	Laryngoscope . 2023 Dec;133(12):3443-3448.	Original Article
90	Tsuge Hiroshi, Kawakita Daisuke, Taniyama Yukari 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Subsite-specific trends in mid- and long-term survival for head and neck cancer patients in Japan: A population-based study.	Cancer Sci . 2024 Feb;115(2):623-634.	Original Article
91	Iwaki Syo, Kadowaki Shigenori, Honda Kazumori 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Survival impact of sequential chemotherapy following pembrolizumab for recurrent or metastatic head and neck squamous cell carcinoma.	Int J Clin Oncol . 2024 Jun;29(6):764-770.	Original Article
92	Hideyoshi Sato, Kazuhiro Toriyama, Ryo Ogawa et al.	形成外科	Divided omental flap wrapping a multiple-branched graft replaced with an infected thoracic aortic aneurysm: A case report	JPRAS Open . 2023 Apr 14:36:72-75.	Case report
93	Ikumi K, Torii K, Sagawa Y 他	皮膚科	Phosphodiesterase 4 inhibitor apremilast improves insulin resistance in psoriasis patients.	J Dermatol (IF: 4; Q2). 2022 Apr;49(4):e125-e126	Letter
94	Mease PJ, Kellner H, Morita A 他	皮膚科	Long-Term Efficacy and Safety of Risankizumab in Patients with Active Psoriatic Arthritis: Results from a 76-Week Phase 2 Randomized Trial.	Rheumatol Ther (IF: 3.49; Q3). 2022 Oct;9(5):1361-1375	Original Article
95	Morita A, Yamaguchi Y, Tateishi C 他	皮膚科	Efficacy and safety of apremilast and phototherapy versus phototherapy only in psoriasis vulgaris.	J Dermatol (IF: 4; Q2). 2022 Dec;49(12):1211-1220	Original Article
96	Armstrong AW, Gooderham M, Morita A 他	皮膚科	Deucravacitinib versus placebo and apremilast in moderate to severe plaque psoriasis: Efficacy and safety results from the 52-week, randomized, double-blinded, placebo-controlled phase 3 POETYK PSO-1 trial.	J Am Acad Dermatol (IF: 11.53; Q1). 2023 Jan;88(1):29-39	Original Article
97	Yasui Y, Kato H, Oda T 他	皮膚科	Complications and risk factors of punch biopsy: A retrospective large-scale study.	J Dermatol (IF: 4; Q2). 2023 Jan;50(1):98-101	Original Article
98	Morita A, Choon SE, Bachelez H 他	皮膚科	Design of Effisayil™ 2: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study of Spesolimab in Preventing Flares in Patients with Generalized Pustular Psoriasis.	Dermatol Ther (Heidelb) (IF: 3.26; Q2). 2023 Jan;13(1):347-359.	Original Article
99	Morita A, Tsai TF, Yee EYW 他	皮膚科	Efficacy and safety of spesolimab in Asian patients with a generalized pustular psoriasis flare: Results from the randomized, double-blind, placebo-controlled Effisayil™ 1 study.	J Dermatol (IF: 4; Q2). 2023 Feb;50(2):183-194.	Original Article
100	Yamanaka K, Okubo Y, Yasuda I 他	皮膚科	Efficacy and safety of risankizumab in Japanese patients with generalized pustular psoriasis or erythrodermic psoriasis: Primary analysis and 180-week follow-up results from the phase 3, multicenter IMMspire study.	J Dermatol (IF: 4; Q2). 2023 Feb;50(2):195-202.	Original Article

101	Nakahara T, Izuhara K, Onozuka D 他	皮膚科	Exploring biomarkers to predict clinical improvement of atopic dermatitis in patients treated with dupilumab (B-PAD study).	Clin Exp Allergy (IF: 5.02; Q2). 2023 Feb;53(2):233-238	Original Article
102	Nojiri Y, Nakamura M, Magara T 他	皮膚科	Influence of aldo-keto reductase 1C3 polymorphisms in early-onset female psoriasis patients.	Sci Rep (IF: 4.38; Q1). 2023 Feb 25;13(1):3280.	Original Article
103	Etani Toshiki, Kondo Shuhei, Yanase Takahiro, et al	泌尿器科	Clinical characteristics of Raoultella ornithinolytica bacteremia and antimicrobial susceptibility of Raoultellaornithinolytica	J Infect Chemother.2023 May;29(5):554-557	Original Article
104	Takeda Tomoki, Iwatsuki Shoichiro, Nozaki Satoshi, et al	泌尿器科	Identification of active spermatogenesis using a multiphoton microscope	Andrology.2023 Sep;11(6):1147-1156	Original Article
105	Naiki Taku, Takahara Kiyoshi, Watanabe Hiromitsu, et al	泌尿器科	The Geriatric Nutritional Risk Index Predicts Prognosis in Japanese Patients with LATITUDE High-Risk Metastatic Hormone-Sensitive Prostate Cancer: A Multi-Center Study	cancers.2023 Nov;15(22):5333	Original Article
106	Nagai Takashi, Naiki Taku, Sugiyama Yosuke, et al	泌尿器科	A narrative review of peripheral blood parameters for urothelial carcinoma treated with systemic antitumor drugs	Transl Androl Urol.2023 Nov;12(5):790-801	Original Article
107	Aoki Maria, Naiki Taku, Naiki-Ito Aya, et al	泌尿器科	Successful treatment with enfortumab-vedotin of metastatic signet ring cell cancer expressing nectin-4 and originating from the bladder	IJU Case Reports.2023 Dec;7(2):110-114	Case report
108	Hamamoto Shuzo, Taguchi Kazumi, Kawase Kengo, et al	泌尿器科	Efficacy of Robot-Assisted Ureteroureterostomy in Patients with Complex Ureteral Stricture after Ureteroscopic Lithotripsy	J. Clin. Med.2023 Dec;12(24):7726	Original Article
109	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Kato Taiki, et al	小児泌尿器科	Surgical management of prepubertal testicular tumors: A30 year study in our institution	Int J Urol.2023 Jun;30(6):521-525	Original Article
110	Nishio Hidenori	小児泌尿器科	Response to Comment: Surgical management of prepubertal testicular tumors: A0-year study in our institution	Int J Urol.2023 Aug;30(8):689	Original Article
111	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Matsumoto Daisuke, et al	小児泌尿器科	Combination of robot-assisted laparoscopic pyeloplasty for lower moiety ureteropelvic junction obstruction in a partial duplex system and percutaneous endoscopic surgery for renal calculi reusing the port for robotic pyeloplasty	IJU Case Rep.2023 Sep;6(6):390-393	Case report
112	Nishio Hidenori, Mizuno Kentaro, Matsumoto Daisuke, et al.	小児泌尿器科	Combination of robot-assisted laparoscopic pyeloplasty for lower moiety ureteropelvic junction obstruction in a partial duplex system and percutaneous endoscopic surgery for renal calculi reusing the port for robotic pyeloplasty	IJU Case Rep. 2023 Sep; 6: 390-393 (オンライン)	Case report
113	Watanabe T, Kondo M, Sakai M, 他	精神科	Acceptance and commitment training for reducing burnout in medical students during a clinical clerkship in psychiatry and palliative care: A pilot study.	Journal of Contextual Behavioral Science ,30:20-30, 2023	Original Article

114	Watanabe T, Akechi T	精神科	The mediating role of psychological flexibility in the association of autistic-like traits with burnout and depression in medical students during clinical clerkships in Japan: a university-based cross-sectional study.	BMC Psychiatry 23:302, 2023	Original Article
115	Uchida M, Furukawa TA, Yamaguchi T, 他	緩和ケアセンター	Optimization of smartphone psychotherapy for depression and anxiety among patients with cancer using the multiphase optimization strategy (MOST) framework and decentralized clinical trial system (Smartphone Intervention to LEssen depression/Anxiety and GAIN resilience: SMILE AGAIN project): a protocol for a randomized controlled trial.	Trials. 2023 May;24(1):344.(オンライン)	Original Article
116	Toshishige Y, Kondo M, Watanabe T, 他	精神科	Association between marital satisfaction of female patients with persistent depressive disorder, and their own and husbands' autism spectrum disorder or attention deficit/hyperactivity disorder traits	Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports 2023年6月	Original Article
117	Shiraishi N, Sakata M, Toyomoto R, 他	精神科	Three types of university students with subthreshold depression characterized by distinctive cognitive behavioral skills.	Cognitive Behaviour Therapy .2023年11月.53(2) 207-219	Original Article
118	Shiraishi N, Sakata M, Toyomoto R, 他	精神科	Dynamics of depressive states among university students in Japan during the COVID-19 pandemic: an interrupted time series analysis	Annals of General Psychiatry .2023年10月 22(1) 38	Original Article
119	Hasegawa T, Okuyama T, Uemura T, 他	緩和ケアセンター	Elements of End-of-Life Discussions Associated With Patients' Reported Outcomes and Actual End-of-Life Care in Patients With Pretreated Lung Cancer.	Oncologist 2024 Feb 2;29(2):e282-e289	Original Article
120	Toshishige Y, Kondo M, Ito Y, 他	精神科	Interpersonal psychotherapy for bereavement-related major depressive disorder in Japan: a pilot study Cogent Psychology, 2023	Cogent Psychology 2023 年12月(オンライン)	Original Article
121	Hasegawa T, Ochi T, Goya S 他	緩和ケアセンター	Efficacy of supplemental oxygen for dyspnea relief in patients with advanced progressive illness: A systematic review and meta-analysis	Respir Investig . 2023 Jul;61(4):418-437.	Review
122	Hasegawa T, Ito Y, Furukawa Y, 他	緩和ケアセンター	Specialized Palliative Care and Intensity of End-of-Life Care Among Adolescents and Young Adults with Cancer: A Medical Chart Review	J Adolesc Young Adult Oncol . 2023 Aug;12(4):488-495.	Original Article
123	Tatsuo Akechi , Takuhiro Yamaguchi , Megumi Uchida 他	精神科	Smartphone Psychotherapy Reduces Fear of Cancer Recurrence Among Breast Cancer Survivors: A Fully Decentralized Randomized Controlled Clinical Trial (J-SUPPORT 1703 Study)	J Clin Oncol . 2023 Feb 10;41(5):1069-1078.	Original Article
124	Kisohara M, Kitera N, Itoh T, Murai K, Hiwatashi A, Kawai T.	放射線診断・IVR科	Identification of a small thrombus in the left ventricle identified on iodine maps derived from dual-source photon-counting detector CT	Radiol Case Rep. 2024 Jan 16;19(4):1404-1408. doi: 10.1016/j.radcr.2024.01.020. eCollection 2024 Apr.	Case report
125	Takano S, Tomita N, Niwa M, Torii A, Takaoka T, Kita N, Uchiyama K, Nakanishi-Imai M, Ayakawa S, Iida M, Tsuzuki Y, Otsuka S, Manabe Y, Nomura K, Ogawa Y, Miyakawa A, Miyamoto A, Takemoto S, Yasui T, Hiwatashi A.	放射線治療科	Impact of radiation doses on clinical relapse of biochemically recurrent prostate cancer after prostatectomy	Sci Rep. 2024 Jan 2;14(1):113. doi: 10.1038/s41598-023-50434-4.	Original Article

126	Sudo S, Torii A, Tomita N, Takaoka T, Horie R, Takano S, Kita N, Niwa M, Okazaki D, Imai Y, Niwa M, Nakashima Y, Osumi K, Tsuzuki Y, Kuno M, Hiwatashi A.	放射線治療科	[Case of Long-Term Response to Radiotherapy for Intramedullary Spinal Cord Metastasis from Ovarian Cancer after Surgery]	Gan To Kagaku Ryoho. 2023 Nov;50(11):1219-1221.	Case report
127	Tomita N, Hayashi N, Mizuno T, Kitagawa Y, Yasui K, Saito Y, Sudo S, Takano S, Kita N, Torii A, Niwa M, Okazaki D, Takaoka T, Kawakita D, Iwasaki S, Hiwatashi A.	放射線治療科	Dosimetric and radiobiological analyses of a de-escalation strategy for elective nodal regions in human papillomavirus-associated oropharyngeal cancer	Tech Innov Patient Support Radiat Oncol. 2023 Oct 13;28:100221. doi: 10.1016/j.tipsro.2023.100221. eCollection 2023 Dec.	Original Article
128	Kita N, Tomita N, Takaoka T, Matsuura A, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Mekata Y, Niimi A, Hiwatashi A.	放射線治療科	Symptomatic radiation-induced rib fractures after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer	Clin Transl Radiat Oncol. 2023 Sep 25;43:100683. doi: 10.1016/j.ctro.2023.100683. eCollection 2023 Nov.	Original Article
129	Iida M, Murai T, Kuno M, Osumi K, Nakanishi-Imai M, Okazaki D, Murase T, Kawakita D, Iwasaki S, Inagaki H, Tomita N, Shibamoto Y, Hiwatashi A.	放射線治療科	Importance of the Number and Location of Lymph Node Metastasis in Oropharyngeal Cancer	In Vivo. 2023 Sep-Oct;37(5):2210-2218. doi: 10.21873/invivo.13321.	Original Article
130	Niwa M, Tomita N, Takaoka T, Takano H, Makita C, Matsuo M, Adachi S, Oshima Y, Yamamoto S, Kuno M, Miyakawa A, Okazaki D, Torii A, Kita N, Takano S, Nakamura M, Kato H, Morita A, Hiwatashi A.	放射線治療科	Clinical Outcomes of Radiation Therapy for Angiosarcoma of the Scalp and Face: A Multi-Institutional Observational Study	Cancers (Basel). 2023 Jul 20;15(14):3696. doi: 10.3390/cancers15143696	Original Article
131	Kita N, Tomita N, Takaoka T, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Mekata Y, Niimi A, Hiwatashi A.	放射線治療科	Clinical and dosimetric factors for symptomatic radiation pneumonitis after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer	Clin Transl Radiat Oncol. 2023 Jun 2;41:100648. doi: 10.1016/j.ctro.2023.100648. eCollection 2023 Jul.	Original Article
132	Torii A, Tomita N, Kuno M, Nishio M, Yamada Y, Takaoka T, Okazaki D, Niwa M, Kita N, Takano S, Murao T, Ogawa Y, Hiwatashi A.	放射線治療科	Intensity-modulated radiation therapy with the central shielding technique for patients with uterine cervical cancer†	J Radiat Res. 2023 Jul 18;64(4):720-727. doi: 10.1093/jrr/rrad039.	Original Article
133	Ogawa M, Kan H, Urano M, Kawai T, Nakajima H, Murai K, Miyaji H, Toyama T, Hiwatashi A.	放射線診断・IVR科	Three-compartment spectral diffusion analysis for breast cancer magnetic resonance imaging	Magn Reson Imaging. 2023 Nov;103:179-184. doi: 10.1016/j.mri.2023.04.006. Epub 2023 May 11.	Original Article
134	Takaoka T, Yanagi T, Tanaka A, Kiriya Y, Tanaka Y, Kondo T, Takano S, Takahashi S, Shibamoto Y, Tomita N, Hiwatashi A.	放射線治療科	Acute genitourinary toxicity of pencil beam scanning proton therapy for localized prostate cancer: utility of the transition zone index and average urinary flow rate in predicting acute urinary retention	Jpn J Clin Oncol. 2023 Apr 29;53(5):419-428. doi: 10.1093/jjco/hyad005.	Original Article
135	Ryo Itazu, Hisako Yano, Shuhei Kondo 他	麻酔科	Methicillin-resistant Staphylococcus aureus cross-transmission in an intensive care unit: Tow high-profile cases analysis using the PCR-based open reading frame typing method	Nagoya Medical Journal. 2023 Mar; 57(2): 73-82	Original Article
136	Toshiyuki Nakanishi, Shohei Kato, Tetsuya Tamura 他	麻酔科	Malposition of a pulmonary artery catheter in the left ventricle: a case report	JA clinical reports. 2023 May; 9(1): 29	Case report

137	Reiko Sato, Rina Kato, MinHye So 他	麻酔科	Pericapsular nerve group block for osteoarthritis-related chronic hip joint pain: a case report	JA Clinical Reports. 2023 Nov; 9(78): 29	Case report
138	Toshiyuki Nakanishi, Tatsuya Tsuji, Yoshiaki Sento 他	麻酔科	Association between postinduction hypotension and postoperative mortality a single-centre retrospective cohort study	Canadian Journal of Anesthesia. 2023 Nov(オンライン)	Original Article
139	Shintaro Akimaru, Toshiyuki Nakanishi, Tatsuya Hasegawa 他	麻酔科	Anesthetic Management of Inguinal Hernia Surgery Using a Second-Generation Supraglottic Airway in a Patient With Trisomy18: A Case Report	Cureus. 2023 Sep; 15(9) (オンライン)	Case report
140	Tatsuya Tsuji, Yoshiaki Sento, Yuji Kamimura 他	麻酔科	Rapid Response System and Limitations of Medical Treatment Among Children With Clinical Deterioration in Japan: A Multicenter Retrospective Cohort Study	Journal of Palliative Medicine. 2024 Feb; 27(2): 241-245	Original Article
141	Tatsuya Tsuji, Yoshiaki Sento, Toshiyuki Nakanishi 他	麻酔科	Incidence and factors associated with newly implemented do-not-attempt-resuscitation orders among deteriorating patients after rapid response system activation: A retrospective observational study using a Japanese multicenter database	Acute Medicine & Surgery. 2023 Jul; 10(1): e870(オンライン)	Original Article
142	Toshiyuki Nakanishi, Yoshiaki Sento, Yuji Kamimura, Ryuji Nakamura, Hiroya Hashimoto, Katsuhiko Okuda, Ryoichi Nakanishi, Kazuya Sobue	麻酔科	Combined use of the ProSeal laryngeal mask airway and a bronchial blocker vs. a double lumen endobronchial tube in thoracoscopic surgery	Journal of Clinical Anesthesia. 2023 May; 88: 111136	Original Article
143	Yuji Kamimura, Norio Yamamoto, Akihiro Shiroshita 他	麻酔科	Comparative efficacy of ultrasound guidance or conventional anatomical landmarks for neuraxial puncture in adult patients a systematic review and network meta-analysis	British Journal of Anaesthesia. 2024 May; 132(5): 1097-1111	Review
144	Toshiyuki Nakanishi, Seishi Sakamoto, Manabu Yoshimura 他	麻酔科	Learning curve of i-gel insertion in novices using a cumulative sum analysis	Scientific reports. 2023 May; 13(7121)(オンライン)	Original Article
145	Tatsuya Tsuji, Yoshiaki Sento, Yuji Kamimura, Tatsuya Kawasaki, Kazuya Sobue	麻酔科	Rapid Response System and Limitations of Medical Treatment Among Children With Clinical Deterioration in Japan. A Multicenter Retrospective Cohort Study	Journal of Palliative Medicin. 2024 Feb; 27(2): 241-245.	Original Article
146	Mitsuru Uchida 1, Motoki Tanikawa 2, Yusuke Nishikawa 1, et al.	脳神経外科	Endoscope-Controlled High Frontal Approach for Dural Arteriovenous Fistula in Anterior Cranial Fossa.	World Neurosurg. 2023 Jul;175:e421-e427. doi: 10.1016/j.wneu.2023.03.116.	Original Article
147	Yoko Shimizu 1 2, Motoki Tanikawa 2, Mitsuya Horiba et al.	脳神経外科	Clinical utility of paced finger tapping assessment in idiopathic normal pressure hydrocephalus.	Front Hum Neurosci. 2023 Feb 23;17:1109670. doi: 10.3389/fnhum.2023.1109670.	Original Article

148	Hiroyuki Katano 1 2, Yusuke Nishikawa 1, Mitsuru Uchida et al.	脳神経外科	Secular trends and features of thalamic hemorrhages compared with other hypertensive intracerebral hemorrhages: an 18-year single-center retrospective assessment	Front Neurol. 15;14:1205091, 2023 doi: 10.3389/fneur.2023.1205091.	Original Article
149	Chiyoda H, Kobayashi S, Katano H. et al.	脳神経外科	Acquired hydrocephalus following hypoxic ischemic encephalopathy without intraventricular hemorrhage: A case report.	J Neonatal Perinatal Med 2023;16(3):569-571. doi: 10.3233/NPM-210950.	Case report
150	Seiji Yamada 1 2, Motoki Tanikawa 1, Yuko Matsushita 3, et al.	脳神経外科	SEGA-like circumscribed astrocytoma in a non-NF1 patient, harboring molecular profile of GBM. A case report.	Neuropathology 2023 Nov 2. doi: 10.1111/neup.12948	Case report
151	Tomohiro Sakata 1, Motoki Tanikawa 1, Hiroshi Yamada et al.	脳神経外科	Minimally invasive treatment for glioblastoma through endoscopic surgery including tumor embolization when necessary: a technical note.	Front. Neurol. 2023, 14; https://doi.org/10.3389/fneur.2023.1170045	Original Article
152	Shigeki Yamada 1 2 3, Yukihiko Aoyagi 4, Chifumi Isekiet al.	脳神経外科	Quantitative Gait Feature Assessment on Two-Dimensional Body Axis Projection Planes Converted from Three-Dimensional Coordinates Estimated with a Deep Learning Smartphone App	Sensors (Basel) . 2023 Jan 5;23(2):617. doi: 10.3390/s23020617.	Original Article
153	Shigeki Yamada, Tomohiro Otani, Satoshi Ii, et al.	脳神経外科	Aging-related volume changes in the brain and cerebrospinal fluid using artificial intelligence-automated segmentation	European Radiology 33(10):7099-7112. 2023年4月15日	Original Article
154	Shigeki Yamada, Hiroataka Ito, Hironori Matsumasa, et al.	脳神経外科	Tightened sulci in the high convexities as a noteworthy feature of idiopathic normal pressure hydrocephalus.	World Neurosurgery 176:e427-e437. 2023年5月26日	Original Article
155	Shusaku Maeda, Tomohiro Otani, Shigeki Yamada, et al.	脳神経外科	Biomechanical effects of hyper-dynamic cerebrospinal fluid flow through the cerebral aqueduct in idiopathic normal pressure hydrocephalus patients.	Journal of Biomechanics 156 111671-111671. 2023年7月1日	Original Article
156	Chifumi Iseki, Tatsuya Hayasaka, Shigeki Yamada, et al.	脳神経外科	Artificial Intelligence Distinguishes Pathological Gait: The Analysis of Markerless Motion Capture Gait Data Acquired by an iOS Application (TDPT-GT).	Sensors 23(13) 6217-6217. 2023年7月7日	Original Article
157	Shigeki Yamada, Hiroataka Ito, Motoki Tanikawa, et al.	脳神経外科	Age-related changes in cerebrospinal fluid dynamics in the pathogenesis of chronic hydrocephalus in adults.	World Neurosurgery 78:351-358. 2023年7月27日	Original Article
158	Yusuke Nishikawa 1, Shigeki Yamada 1 2, Mitsuru Uchida et al.	脳神経外科	Japanese nationwide questionnaire survey on delayed cerebral infarction due to vasospasm after subarachnoid hemorrhage.	Front Neurol. 2023 Nov 2;14:1296995. doi:10.3389/fneur.2023.1296995. eCollection 2023.PMID: 38020653	Original Article

159	Tomoyasu Yamanaka I, Yusuke Nishikawa I, Takashi Iwata et al.	脳神経外科	Preventive effect of intermittent cerebrospinal fluid drainage for secondary chronic hydrocephalus after aneurysmal subarachnoid hemorrhage	Fluids and Barriers of the CNS. 2023 Dec 6;20(1):91. doi: 10.1186/s12987-023-00486-5.	Original Article
160	Shigeki Yamada, Hirota Ito, Hironori Matsumasa, et al.	脳神経外科	Automatic assessment of disproportionately enlarged subarachnoid-space hydrocephalus from 3D MRI using two deep learning models.	Front Aging Neurosci. 2024 Mar 15;16:1362637. doi: 10.3389/finagi.2024.1362637. eCollection 2024.	Original Article
161	Mats Tullberg, Ahmed K. Toma, Shigeki Yamada, et al.	脳神経外科	Classification of Chronic Hydrocephalus in Adults: A Systematic Review and Analysis	World Neurosurg. 2024 Mar;183:113-122. doi: 10.1016/j.wneu.2023.12.094. Epub 2023 Dec 22.	Review
162	Tomomi Mizutani, Shuhei Tsuchiya, Masaki Honda 他	歯科口腔外科	Alkali-treated titanium dioxide promotes formation of proteoglycan layer and altered calcification and immunotolerance capacity in bone marrow stem cell	Biochemistry and Biophysics Reports. 2023 Dec; 36: 101569	Original Article
163	Kuroyanagi G, Hioki T, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Tokuda H.	リハビリテーション科	HSP70 inhibitor amplifies the bFGF-induced release of IL-6 in osteoblasts.	Mol Med Rep. 2023 Dec;28(6):230.	Original Article
164	Kuroyanagi G, Hioki T, Tachi J, Matsushima-Nishiwaki R, Iida H, Tokuda H, Kozawa O.	リハビリテーション科	Resveratrol inhibits basic fibroblast growth factor-induced macrophage colony-stimulating factor synthesis via the PI3-kinase/Akt pathway in osteoblasts.	Biosci Biotechnol Biochem. 2023 Nov 21;87(12):1462-1469.	Original Article
165	Kuroyanagi G, Kamiya N, Yamaguchi R, Kim HKW.	リハビリテーション科	Interleukin-6 receptor blockade improves bone healing following ischemic osteonecrosis in adolescent mice.	Osteoarthritis Cartilage. 2023 Aug 2;31(4):100386.	Original Article
166	Kuroyanagi G, Hioki T, Tachi J, Matsushima-Nishiwaki R, Iida H, Kozawa O, Tokuda H.	リハビリテーション科	Oncostatin M stimulates prostaglandin D2-induced osteoprotegerin and interleukin-6 synthesis in osteoblasts.	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 2023 May;192:102575.	Original Article
167	Sakaeda Yukinori, Kato Aki, Kuwayama Soichiro 他	医学研究科	Long-Term Prognosis of Patients with Polypoidal Choroidal Vasculopathy Treated with Photodynamic Therapy	J Clin Med. 2023;Jul;12:4707	Original Article
168	Kato Fusae, Nozaki Miho, Kato Aki	医学研究科	Retinal Microvascular Changes after Intravitreal Triamcinolone Acetonide in Diabetic Macular	J Clin Med. 2023;May;12:3475	Original Article
169	Nozaki Miho, Ando Ryota, Kimura Toshiya	医学研究科	The Role of Laser Photocoagulation in Treating Diabetic Macular Edema in the Era of Intravitreal Drug Administration :A Descriptive Review	Medicina. 2023;Jul;59:1319	Original Article

170	Ishiguro Kiyona, Hirano Yoshio, Esaki Yuya, et al.	医学研究科	Central Retinal Vein Occlusion after mRNA COVID-19 Vaccination	Case Rep Ophthalmol. May;14:234-240	Original Article
171	Yuguchi Takaaki, Ogura Shuntaro, Hirano Yoshio, et al.	医学研究科	Autologous posterior capsule flap transplantation in the management of refractory macular hole in a pseudophakic eye	Retin Cases Brief Rep. 2023 Mar;17:85-88	Original Article
172	Kurobe Ryo, Hirano Yoshio, Yuguchi Takaaki, et al.	医学研究科	Severe macular ischemia is associated with a poor visual prognosis and serious complications in eyes with central retinal vein occlusion	J Clin Med. 2023 Oct;12:6710	Original Article

計172件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
<p>・ 手順書の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 名古屋市立大学における医学系研究に係わる実施要綱（令和5年7月18日）➤ 名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会規程（令和6年4月2日）➤ 名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会（IRB）標準業務手順書（令和5年7月18日）➤ 名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会（IRB）事務局にかかる標準業務手順書（令和5年7月18日） <p>名古屋市立大学において、外部から依頼を受けてあるいは自ら計画して行われる医薬品、医療機器、再生医療等製品等の臨床試験、その他の医学系研究の実施するために必要な事項を「実施要綱」で定め、「医学系研究倫理審査委員会規程」を制定し、医学系研究の実施の適否その他の事項を調査、審議及び検討を行っている。なお、委員会の運営においては、「医学系研究倫理審査委員会（IRB）標準業務手順書」にて運営に関する手続き及び記録の保存方法等の詳細を定め、「医学系研究倫理審査委員会（IRB）事務局にかかる標準業務手順書」にて事務局の業務内容を定めている。</p>	
③ 倫理審査委員会の開催状況 (2023年度開催状況) 2023年4月12日、5月10日、6月7日、7月5日、8月2日、9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、1月10日、2月7日、3月6日	年 12 回 委員会開催審査の他、規程により迅速審査（書面審査）を随時実施。

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>大学として利益相反の指針を示す「利益相反マネジメントポリシー」のもと、「利益相反マネ</p>	

ジメント規程」及び「大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会規程」を制定し、毎年各教員に対して利益相反に関する自己申告書の提出を義務付け、必要に応じ適宜ヒアリングを行っている。また、利益相反に関する専門的事項について調査・審議するため、全学的な組織として外部専門家を含めた利益相反委員会を設置している。

なお、医学研究等にかかる利益相反に関しては、医学研究科内に大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会を設置し、臨床研究実施前の事前申告、毎年1回の定期申告に基づいて適切な管理を行っている。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年13回
---------------------------------------	------

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 9 回
-----------------------	-------

・研修の主な内容

「臨床研究実施セミナー（14回/年）」のうち、上記に合致する内容の開催状況は以下の9回

- ① 本学における臨床研究の手続き（2023年4月14日開催）参加者数：236名
- ② 臨床研究法について（2023年8月8日開催）参加者数：61名
- ③ 第1回モニタリング講習会 臨床研究を成功に導くためのモニタリング手法の活用
（2023年6月30日開催）参加者数：79名
- ④ 医学研究と医療安全（2023年9月12日開催）参加者数：131名
- ⑤ 臨床研究の手続き等について（2023年10月16日開催）参加者数：193名
- ⑥ 第2回モニタリング講習会 リスクに基づくモニタリングを実践しよう（2023年11月7日開催）
参加者数：66名
- ⑦ 患者目線から説明文書をどう読むか（2023年12月13日開催）参加者数：102名
- ⑧ 臨床研究実施にあたり、注意すべき倫理上のポイント（2024年2月14日開催）参加者数：81名
- ⑨ GCP（Good Clinical Practice）/モニタリング（2024年3月11日開催）参加者数：75名

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

診療科ごとに各領域の専門医取得を目指す専門的な研修を実施している。また、診療科部長又は部長代理を研修統括者とした指導体制を整備し、目標、指導体制、診療実績、連携施設等を含めた研修プログラムをホームページで明示している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	103.3人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮崎 景	総合診療科・総合内科	部長	26	
片岡 洋望	消化器内科	部長	34	
藤原 圭	肝・膵臓内科	部長	27	
新実 彰男	呼吸器・アレルギー内科	部長	38	
難波 大夫	リウマチ・膠原病内科	部長	29	
瀬尾 由広	循環器内科	部長	31	
田中 智洋	内分泌・糖尿病内科	部長	25	
飯田 真介	血液・腫瘍内科	部長	36	
松川 則之	脳神経内科	部長	35	
濱野 高行	腎臓内科	部長	25	
瀧口 修司	消化器・一般外科	部長	32	
奥田 勝裕	呼吸器外科	部長	23	
須田 久雄	心臓血管外科	部長	38	
高木 大輔	小児外科	部長代理	21	
遠山 竜也	乳腺外科	部長	34	
村上 英樹	整形外科	部長	30	
杉浦 真弓	産科婦人科	部長	38	
齋藤 伸治	小児科	部長	38	
安川 力	眼科	部長	25	
岩崎 真一	耳鼻いんこう科	部長	31	
鳥山 和宏	形成外科	部長	34	
森田 明理	皮膚科	部長	34	
安井 孝周	泌尿器科	部長	29	
林 祐太郎	小児泌尿器科	部長	38	
明智 龍男	精神科	部長	32	
樋渡 昭雄	放射線科	部長	26	
祖父江 和哉	麻酔科	部長	30	
間瀬 光人	脳神経外科	部長	38	
渋谷 恭之	歯科口腔外科	部長	34	
植木 美乃	リハビリテーション科	部長	26	
高橋 智	実験病態病理学	教授	32	
服部 友紀	救急科	部長	29	
井上 貴子	臨床検査科	部長	25	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
様式4-2別紙 参照
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
様式4-2別紙 参照
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
様式4-2別紙 参照

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修	研修の名称	研修の主な内容 (名称から読み取れる場合は記載不要です)	研修の期間 (開催日)	実施回数 (合計)	参加人数	対象職種	担当部署	
① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況	看護師特定行為研修(厚生労働省指定研修機関番号および名称: 2023009 名古屋市立大学病院)		2023/4/1-2024/3/31	研修期間を通して実施	2名	看護師	医療人育成課臨床研修係	
	ISO15189:2022全要求事項解説セミナー	国際規格ISO15189「臨床検査室の品質と能力に関する要求事項」における2022年改訂版の概要と要求事項の内容、移行審査までの流れ	2024/1/20	1回	34名	医師(臨床検査技術科に関わる医師)臨床検査技師	診療技術部 臨床検査技術科	
	保険診療に関する講習会	第1回 ①特定共同指導 ②電子カルテにおける電子保存の三原則 ③医事課からのお知らせ ④レセプト精度調査の結果報告及び増収 ⑤症状詳細の記載上の留意点 第2回 ①入院基本料等・初再診料の見直し ②入院医療の評価 ③外来医療の機能分化の機軸と患者の転送	第1回: 2023/10/4 第2回: 2024/3/29	2回	第1回: 会場120名 eラーニング 1352名 第2回: 会場131名 eラーニング 1447名	全職種	医事課	
	高度管理医療機器研修会	高度管理医療機器である高エネルギーX線発生装置(リニアック・トモセラピー・Radixact)と密封小線源放射線治療装置(RALS)における装置の特徴・安全使用及び故障や緊急時の対応	2023/4/27 2023/10/26	2回	4月研修参加者: 23名 10月研修参加者: 23名	診療放射線技師	放射線技術科	
	人工呼吸器(V60)セミナー	人工呼吸器V60の取り扱い、演習	2023/8/8 2023/10/6 2023/12/8	3回	127名	看護職員	ME・看護部	
	人工呼吸器(トリロジー)セミナー	人工呼吸器トリロジーの取り扱い、演習	2023/5/30 2023/6/21 2023/7/13 2023/8/22 2023/9/22 2023/10/12 2023/11/13 2024/1/18 2024/2/16 2024/3/12	11回	319名	看護職員	ME・看護部	
	がん看護ベーシックコース	がん看護の基本的知識の習得	2024/10/7 2024/11/19	2回	37名	看護職員	看護部	
	がん看護アドバンスコース	個別的ながん看護の実践	2024/12/2	1回	19名	看護職員	看護部	
	がん看護院内認定フォローアップ	院内認定看護師としての活動について	2024/8/24 2025/1/25	2回	17名	看護職員	看護部	
	② 業務の管理に関する研修の実施状況	令和5年度児童虐待防止講演会	eラーニング開催	2024/4/8-2024/4/30	研修期間を通して実施	1158名	-	地域医療連携室
		個人情報保護研修(eラーニング)		2023/8/1-8/31	1回	1158名	全職員	医事課情報システム係
		情報セキュリティ研修(eラーニング)		2023/8/1-8/31	1回	1140名	全職員	医事課情報システム係
		医薬品安全管理研修会 倫理研修会	麻薬の取扱いについて 倫理コンサルテーション活動報告など	2023/7/3~7/28 2024/2/19~3/8	1回 1回	1174名 1132名	全職種 全職種	医療安全管理部 医療安全管理部
危機管理研修会		重大事故報告など	2024/2/6 (DVD講演会 2024/2/7、2/14、 2/15、2/16) (eラーニング 2024/2/19~3/8)	1回	1699名	全職種	医療安全管理部 (感染制御部と合同開催)	
医療事故防止講演会		病院機能評価で求められる医療安全について	2023/8/30 (DVD講演会 2023/9/4、9/6、 9/20) (eラーニング 2023/10/16~10/31、 2023/11/10~ 2023/11/22)	1回	1715名	全職種	医療安全管理部	
麻薬講演会			2023/7/3~7/28	1回		全職種		
感染対策講演会		第1回 2023年度における感染管理の取り組み ・当院の血液培養採取の評価について ・これならできる!!~ながら~ながらの手指衛生 第2回 感染症の最近の話題	第1回: 2023/7/28 (eラーニング: 2023/8/2~9/15、~ 10/31、12/21~ 2024/1/31) (資料確認: 2024/2/8~28) 第2回: 2024/1/17 (DVD講演会: 2024/1/19、1/26、 1/29) (eラーニング: 2024/2/5~3/8、4/16 ~5/10) (資料確認: 2024/5/22~5/31)	2回	第1回: 1,769名 第2回: 1,696名	全職種	感染制御部	
抗菌薬適正使用講演会		第1回 ※第1回感染対策講演会併催 2023年度における感染管理の取り組み ・知っていますか?新AMRアクションプラン 第2回 ※危機管理研修会合同開催 JAID/JSC感染症治療ガイド2023 発熱性好中球減少症の改訂点について	第1回: 2023/7/28 (eラーニング: 8/2~ 9/15、~10/31、 12/21~1/31、資料確認: 2/8~28) 第2回: 2024/2/6 (DVD講演会 2024/2/7、2/14、 2/15、2/16) (eラーニング 2024/2/19~3/8)	2回	第1回: 1,769名 第2回: 1,699名	全職種	感染制御部 (第1回は、感染対策講演会併催 第2回は、医療安全管理部と合同開催)	
災害対策講演会(会場およびeラーニング)			2024/3/18 eラーニング: 2024/3/21-2024/3/31	1回	807名 (3/18参加108名含む)		管理課	
コンプライアンス研修(eラーニング)			2023/11/8-	1回	208名	全職種	管理課	
ハラスメント研修会(所属内で対面研修又は自主研修(資料配布))			2023/10/2- 2023/11/30	1回	1,206名(対面研修及び自主研修参加人数合計)	全職種	管理課	
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況		第15回桜山リハビリテーション研究会	1) ボツリヌス療法を中心とした痙攣のマネジメントの講演 2) 多職種による地域でのロコモへの取り組みについての講演	2023/11/25	1回	58名	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	リハビリテーション科・技術科
	第16回桜山リハビリテーション研究会	1) 3施設から症例報告 2) リハビリテーション医療における定量的歩行分析の有用性と役割についての講演	2024/2/10	1回	63名	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	リハビリテーション科・技術科	
	なごや看護実践セミナー 搬送する?搬送しない?判断に迷わないためのアセスメント力を身に付けよう	訪問看護師が訪問先で遭遇しやすい症状のアセスメントを学ぶ	2023/9/30	1回	22名	医療・介護職	名古屋市立大学看護地域連携センター主催・地域医療連携室共催	

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 間瀬 光人	
管理担当者氏名	管理課長 徳永 智明	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		処方せん	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		手術記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		看護記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		検査所見記録	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		エックス線写真	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
		紹介状	電子カルテサーバー、過去分は病歴センター
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課、人事課
		高度の医療の提供の実績	管理課、医事課、診療科等
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課、医学研究推進課、診療科等
		高度の医療の研修の実績	管理課、医療人育成課
		閲覧実績	管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課、地域医療連携室
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第四号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部、医療安全管理部
	第五号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第六号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、医療安全管理部
	第八号	医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学室、医療安全管理部
	第九号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室
	第十号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室
第十一号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室、医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	管理課、医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	管理課、感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	管理課、地域医療連携室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	管理課、医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 医療安全管理部 地域医療連携室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室 医療安全管理部
		職員研修の実施状況	人事課、管理課、医療人育成課、中央臨床検査部、中央放射線部、薬剤部、臨床工学室、医療安全管理部、感染制御部、臨床研究開発センター、看護部、医事課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	薬剤部 臨床工学室 医療安全管理部		
管理者が有する権限に関する状況	人事課、財務課、管理課、経営課、医療人育成課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課、監査室、管理課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課、管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理

方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	管理課長 徳永 智明	
閲覧担当者氏名	庶務係長 奥村 周悟	
閲覧の求めに応じる場所	管理課庶務係	
閲覧の手続の概要 記録の閲覧に関する責任者、担当者及び閲覧の求めに応じる場所を定め、閲覧の求めに応じる場所の入り口に掲示している。閲覧の求めがあった際は、閲覧責任者の許可のもと、閲覧担当者にて諸記録の公開を行う。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容：（別紙01を参照） 1. 医療機関における安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 9. 医療安全推進のための外部からの監査・評価に関する基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 10 回 ・ 活動の主な内容：（別紙02を参照） (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。 (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること (3) 医療事故等の公表に関すること (4) その他医療に係る安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：（別紙03を参照） 新規採用者を対象に新規採用者研修会 中途採用者を対象に中途採用者研修会を年3回実施 医薬品管理研修会として麻薬講習会を年1回実施 全職員を対象に医療事故防止講演会及び倫理研修会を各年1回ずつ実施 重大事件事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年1回実施 医師事務作業補助者を対象に医師事務作業補助者研修会を年2回実施 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメントマニュアルの定期的な見直し（追録・修正） ・ 安全管理に関する自己点検評価報告書の策定・まとめ ・ 事故収集による分析（定量および定性分析）・対策・実施 ・ リスクマネジメントニュースの発行 ・ eラーニングの実施 ・ 院内医療安全巡視 ・ 医療安全全国共同行動参加にてワーキング活動 ・ 暴力対策の実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染対策に関する基本的考え方 2 院内感染対策のための組織に関する基本事項 3 院内感染対策のための従事者に対する講習に関する基本方針 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5 感染発生時の対応に関する基本方針 6 院内感染防止に対する基本方針 7 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8 本指針の周知ならびに見直し及び改訂 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <p>感染対策委員会は、院内における感染症の感染予防対策に関する次の事項について審議し、方針を決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染防止対策マニュアルの策定及び変更 2 全職員を対象とした感染防止教育と啓発 3 各職種、各部門の予防対策に関し、必要と思われる事項 4 職業感染予防の策定 5 院内感染発生時の改善策について病院職員への周知 6 その他院内感染に関する重要事項 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策講演会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 7月28日（8月2日～9月15日：eラーニング） 「当院の血液培養採取の評価について」 「これならできる!!～ながら～ながらの手指衛生」 第2回 1月17日 講演（1月19日、1月26日、1月29日：DVD）（2月5日～3月8日：eラーニング） 「感染症の最近の話題」 2. 抗菌薬適正使用支援講演会 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 7月28日 8月2日～9月15日：eラーニング） 「知っています？新AMRアクションプラン」 第2回 2月6日（2月7日、2月14日、2月15日、2月16日：DVD） （2月19日～3月9日：eラーニング） 「JAID/JSC感染症治療ガイド2023 発熱性好中球減少症の改訂点について」 3. 新規採用者研修 <ul style="list-style-type: none"> 4月3日～4日 講義「医療施設での感染症対策」「感染対策における微生物検査」 「抗菌薬適正使用」「院内感染予防策」「針刺し・血液曝露防止」「職員の健康管理」 個人防護具着脱演習 4. 中途採用者研修 <ul style="list-style-type: none"> 7月19日、1月19日 講義「医療施設での感染症対策」「感染管理」 手洗い演習 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> ①医師事務補助者研修 	

7月14日、2月14日 講義「医療施設での感染症対策」「感染管理」 手洗い演習

②環境整備・清掃担当者研修

10月16日 10月19日 講義「環境整備・清掃」 個人防護具着脱演習

6. NCU Infection Seminar

第78回 5月11日 「感覚と免疫の接点から考える感染症治療」

第79回 7月12日 「特徴を理解した抗真菌薬の使い分け

～イサブコナゾールの位置づけを考える～」

第80回 9月13日 「新型コロナウイルス感染症の振り返りと今後の診療のあり方」

第81回 11月8日 「COVID-19後遺症の診療の実際～症例から考察するメカニズム～」

第82回 1月11日 「60分でわかる梅毒の診断・治療」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 感染制御部を中心とした感染対策チーム（ICT）に、微生物検出状況、現場での感染症状を呈する患者の状況が報告される。ICTは横断的活動の権限をもって、状況確認、情報収集、対策の検討をし、現場へ適切な指導・助言をしている。
 - (2) 微生物カンファレンスや抗菌薬適正使用支援チーム（AST）により院内の分離菌発生と薬剤感受性の把握をし、耐性菌等に対する診療支援や感染対策の分析・検討をしている。2023年度の微生物カンファレンスは84件、血液培養カンファレンスは820件行った。
 - (3) ASTは、抗菌薬の使用動向を監視し適正使用に向けた診療支援を行っており、2023年度は2955件のモニタリングを行った。
 - (4) ICTにより現場の環境ラウンドを実施（部署別ラウンド53部署、目的別ラウンド312部署）し、感染対策上の問題の早期改善に努めている。
 - (5) 感染対策や感染症診療・抗菌薬使用に関するコンサルテーションについて、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師が対応し、診療支援や部署の感染対策の改善につなげている。2023年度は896件に対応した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 新人看護師向け薬剤研修会（2回） 管理が必要な医薬品・与薬時の注意点・薬剤師による情報提供など 医薬品安全管理講習会（1回）e-ラーニングにて実施 麻薬の管理と取り扱いについて 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <医薬品適正使用状況確認の実施> 医薬品適正使用状況確認表を用いて、以下の項目について月1回、各部門において確認している。 ・ 施錠が必要な薬品の管理 ・ 部門定数薬の管理 （冷所保存薬および遮光保存薬の管理、定数薬の配置数、期限切れ医薬品および有効期限まで3ヶ月未満の医薬品の有無、定数薬以外の医薬品の有無、分割使用時の残液の管理など） ・ 冷蔵庫の温度確認 ・ 部門内の手指消毒薬の期限確認 ・ 安全性情報等の周知 ・ 医療従事者からの相談応需 ・ 有害事象・配合変化情報の収集などの具体例 ・ 医薬品に関する過誤事例の分析と再発防止 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） 薬剤師が、未承認新規医薬品等（適応外・禁忌）の相談を医師から受けた、または使用を発見した際には、未承認新規医薬品等評価部門薬剤師（医療の質管理部主査）あるいは評価部門長（薬剤部長）等に連絡する。また電子カルテ上の「相談事例一覧（薬剤部集積用）」に入力する。 ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 2023（R5）年度中の把握事例：62例（2023年10月～2024年3月） 具体例） 悪性腹膜中皮腫に対するゲムシタビンの使用 カリウム製剤投与中の患者に対するエサキセレン（ミネプロ）錠の投与 不育症に対するTNF阻害薬の使用 ノカルジアに対してアミカシンを結膜下注射または点眼での使用 GVHDに対するブデソニド（ゼンタコート）カプセルの使用 透析患者へのリオシグアト（アデムパス）錠の使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 相談事例一覧の情報共有を適宜薬剤部内で行っている（電カル上で常時閲覧可能） 	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年165回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工心肺装置、人工呼吸器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置等の特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する職員に対する取扱研修 ・ 新規採用者及び中途採用者に対するシリンジポンプ、輸液ポンプ等の医療機器の取扱研修及び医療機器安全管理研修、職員に対する随時医療機器研修。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工呼吸器、閉鎖式保育器等のMEセンター中央管理医療機器は、使用後MEセンターへ返却の都度、また、一定の点検周期毎に、保守点検を実施している。 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置などの医療機器については、業者による定期点検を実施している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： アテローム血栓性脳梗塞に対する経皮的血管形成術 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係るインシデント情報、メーカーからの安全性情報、医薬品医療機器総合機構から発進される情報等については、医療安全管理部へ一元的に集約され、同室及び臨床工学室が中心となり各部署への情報発信及び対策を実施している。 ・ 医療機器の安全使用の観点から、中央管理する機器については、標準化を図っている。 ・ 医療機器の使用に係る医療事故の発生を防ぐことを目的として作成した医療機器使用マニュアルの適宜見直しを行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無																												
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会委員長として委員会を運営し、病院全体の安全管理体制の確保の徹底を図るとともに、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括し、安全管理に関する病院全体の責務を担う。</p>																													
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(9名)・無																												
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品安全管理責任者に指示のもと、医薬品情報係長(専任:医薬品安全管理実施担当者)1名および係員3名(兼任)にて定期的な情報収集及び発信を行っている。 ・医薬品情報誌の発行:12回 主な内容)薬事委員会報告、医薬品・医療機器等安全性情報、個別医薬品の適正使用情報 添付文書改訂、製剤および包装変更 ・院内有害事象報告(重篤既知あるいは未知事例:薬事委員会で報告):13件 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審査 診療科は、未承認新規医薬品等を用いた医療提供時には、未承認新規医薬品等評価部門(以下、評価部門)に申請を行う。評価部門は審査要否を判断し、必要に応じて未承認新規医薬品等評価委員会(以下、評価委員会)に審査を付託する。評価委員会は審査を行い、審査結果を評価部門に報告する。評価部門は審査結果を踏まえて使用適否を決定し、診療科に通知する。 2023年度未承認新規医薬品等の申請件数 37件(委員会審査あり 31件 委員会審査なし 6件) ・モニタリング 評価部門は、使用状況について申請者から適宜報告を受け適正に使用されていたかを確認する。 <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種:</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">評価部門長</td> <td style="width: 40%;">所属: 医薬品安全管理責任者</td> <td style="width: 10%;">職種</td> <td style="width: 20%;">薬剤師</td> </tr> <tr> <td>評価部門員</td> <td>所属: 医療機器安全管理責任者</td> <td>職種</td> <td>医師</td> </tr> <tr> <td>評価部門員</td> <td>所属: 臨床研究支援開発センター一長</td> <td>職種</td> <td>医師</td> </tr> <tr> <td>評価部門員</td> <td>所属: 病院管理部長</td> <td>職種</td> <td>事務</td> </tr> <tr> <td>評価部門員</td> <td>所属: 副看護部長</td> <td>職種</td> <td>看護師</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>所属: 医療の質管理部主査</td> <td>職種</td> <td>薬剤師</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>所属: 医療の質管理部</td> <td>職種</td> <td>事務</td> </tr> </table>		評価部門長	所属: 医薬品安全管理責任者	職種	薬剤師	評価部門員	所属: 医療機器安全管理責任者	職種	医師	評価部門員	所属: 臨床研究支援開発センター一長	職種	医師	評価部門員	所属: 病院管理部長	職種	事務	評価部門員	所属: 副看護部長	職種	看護師	事務局	所属: 医療の質管理部主査	職種	薬剤師	事務局	所属: 医療の質管理部	職種	事務
評価部門長	所属: 医薬品安全管理責任者	職種	薬剤師																										
評価部門員	所属: 医療機器安全管理責任者	職種	医師																										
評価部門員	所属: 臨床研究支援開発センター一長	職種	医師																										
評価部門員	所属: 病院管理部長	職種	事務																										
評価部門員	所属: 副看護部長	職種	看護師																										
事務局	所属: 医療の質管理部主査	職種	薬剤師																										
事務局	所属: 医療の質管理部	職種	事務																										

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： セーフティマネージャーで構成された医療安全全国行動ワーキンググループにおいて、診療録の確認を行う、またインシデントが発生した際、同意書及び診療録にて遵守状況を確認し、該当部門へ個別に指導している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療情報管理委員と診療情報管理士にてカルテの質的監査を実施している。監査は、「診療記録記載要綱」に基づき、診療記録の記載がされているか確認を行っている。監査結果は、診療情報管理士より診療科へ通知を行う。また、診療情報管理委員会において検討を行い、必要に応じて、委員長より診療科へ指導を行う。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・所属職員：専従（9）名、専任（1）名、兼任（5）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）医療安全管理委員会、セーフティマネージャー会議等で用いられる資料及び議事録の作成、保存、その他安全管理委員会の庶務に関すること。 （2）事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 （3）患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 （4）事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 （5）医療安全に係る連絡調整に関すること。 （6）その他医療安全対策の推進に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（15件）、及び許可件数（12件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・診療科の長から申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術に該当するか判断し、高難度新規医療技術評価委員会に対し審査付託を行い、使用の適否、使用条件等について意見を求める。
 - ・委員会審査結果を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
 - ・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合に診療科へ実施報告書の提出を求め、診療録等の記載内容を確認する。
 - ・高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（37件）、及び許可件数（36件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・診療科の長から申請が行われた場合又は薬剤師から未承認新規医薬品等の使用の報告を受けた場合において、当該申請又は報告の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等のリスク分類と審査要否の通り審査を行うか判断をし、未承認新規医薬品等評価委員会に対し審査付託を行い、使用

の適否、使用条件等について意見を求める。

- ・ 委員会審査結果を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知し、病院長へ報告する。
- ・ 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、リスク分類に基づき定めたタイミングで申請者からの報告内容を確認する。
- ・ 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 363 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 106 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること
なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。
 - (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
 - (3) 医療事故等の公表に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名：長崎大学病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：高知大学病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況
査委員会において、医療現場を直接視察してもらおう実地確認の機会を設けた方がよいと助言をうけ、令和 6 年度第 1 回監査委員会で薬剤部の視察を行った。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院内に、地域医療連携センター長を室長として「患者相談室」を設置し、医療内容についての心配や不安等の相談を相談員（看護師や社会福祉士）が受けている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況（別紙 03 を参照）

新規採用者を対象に新規採用者研修会（R5. 4. 3、4）、中途採用者を対象に中途採用者研修会を年 3 回（R5. 7. 26、11. 22、R6. 2. 14）実施
医薬品管理研修会として麻薬講習会を年 1 回（R5. 7. 3～7. 28）実施
全職員を対象とした医療事故防止講演会（R5. 8. 30、9. 4、9. 6、9. 20、10. 16～10. 31、11. 10～10. 22）及び倫理研修会（R6. 2. 19～3. 8）を各年 1 回ずつ、重大事件事例の周知徹底を図る危機管理研修会を年 1 回（R6. 2. 6、2. 7、2. 15、2. 16、2. 19～3. 8）実施
医師事務作業補助者就業前の職員を対象に医師事務作業補助者研修を年 2 回（R5. 7. 14、R6. 2. 14）実施

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者

・令和 6 年 1 月 26 日 2023 年度特定機能病院管理者研修
（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者

・令和 6 年 1 月 9 日 2023 年度特定機能病院管理者研修
（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者

・令和 5 年 11 月 20 日 2023 年度特定機能病院管理者研修
（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者

・令和 5 年 12 月 15 日 2023 年度特定機能病院管理者研修
（主催：公益財団法人日本医療機能評価機構）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

・公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価の認定「機能種別 一般病院 3」3rdG:Ver. 2.0 令和 6 年 8 月 23 日付け認定。
・一般財団法人日本医療教育財団 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP） 令和 6 年 1 月 24 日付け認定

- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

名古屋市立大学病院 HP にて公表。

- ・評価を踏まえ講じた措置

未承認新規医薬品等を用いた医療の提供及び高難度新規医療技術を用いた医療の提供の審査に関して、部門と評価委員会を担う担当者が兼任していたため、令和 6 年度から組織を分けて担当者を別にした。

(注) 記載時点の状況を記載すること

医療の質と安全における理念

1. 安全の確保を医療行為における最大の使命とします。
2. 安全で質の高い医療の提供を実現します。
3. 患者さん中心の医療の提供を実現します。

1 医療に係る安全管理のための指針

名古屋市立大学病院（以下、「当院」という）における医療の質と安全を推進するため、本指針を定める。

1. 当院における安全管理に関する基本的考え方

当院は、患者さんの生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で医療の質・安全の推進の徹底を図る。

すべての職員が、患者さんを中心とした安全管理を意識し、医療事故防止に取り組んでいく。より安全な医療の提供と患者満足度の向上を目指し、安全に対する意識を高めマニュアルを遵守した改善・改革を進めていくこと安全管理の基本方針とする。

2. 安全管理委員会・その他の組織に関する基本的事項

当院の安全管理体制の確保及び推進のため、副病院長（医療安全管理担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務を統括する。

医療の安全性の確保と適切な医療を提供するとともに、病院機能の向上と運営改善に資するために、医療安全管理部を設置し、医療安全を組織横断的に推進し、適切かつ効率的に事故防止を図り、安全管理を行うものとし、医療安全管理責任者を部長（専従の医師）とする。

当院全体の医療の質・安全の推進について検討・審議を行う医療安全管理委員会、医療安全管理責任者から任命された各部門のセーフティマネージャーを中心に活動する周知徹底機関としてセーフティマネージャー会議を設置し病院全体で継続的に取り組んでいくものとする。それらの組織、運用

についてはそれぞれ別に規程を設ける。

3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1) 医療安全管理委員会は、予め作成した研修計画に従い1年に2回程度の全職員を対象とした医療の質・安全を推進するための研修を定期的実施する。
- 2) 研修は、医療安全の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することを通じて、職員個々の医療安全意識の向上を図るとともに、当院全体の医療安全を向上させることを目的とする。
- 3) 職員は、実施される研修を受講しなければならない。
- 4) 病院長は、当院で重大医療事故が発生した場合や必要があると認めた場合は、臨時で、報告会を開催し全職員に対して情報を提供する。
- 5) 医療の質・安全を推進するための研修の実施方法としては、外部講師を招聘しての講習会、院内での事例または医療安全取り組み報告会、医薬品安全管理・医療機器安全管理に関する研修会等を実施する。

4. 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針

- 1) 医療安全管理の推進に必要な事項を定めた、「リスクマネジメントマニュアル」を作成し、医療事故防止対策に活用する。
- 2) インシデントの報告は、リスクマネジメントマニュアルに基づき医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネジメントに対する病院全体の意識の高揚を図るものとする。
- 3) 報告された事例は、医療安全管理部でとりまとめ、医療安全管理委員会で事例の把握及び原因分析に基づいた防止対策・改善策について審議し、セーフティマネージャー会議やRMニュースを通じて院内に再発防止策を周知徹底する。
- 4) インシデントレポートは、報告により当事者が不利益を受けないことを担保するために、原則非公開とする。

5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- 1) 医療事故等が発生した場合は、当院の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。また、当院内のみでの対応が不可能と判断された場合には、遅滞なく公的機関の助言を求めるものとする。
- 2) 患者・家族への説明は、事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、事故の状況、現在実施している回復措置、その見通し等について各担当医・部門長等が誠意をもって正確に説明する。

3) 重大医療事故が発生した場合には、発生した事故情報の把握、原因究明、対応策及び再発防止策の検討を速やかに図るため、「重大医療事故報告制度の流れ」に基づき対応する。

4) 対応した職員は、その事実及び説明内容を診療録に記録する。

6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針

医療の質・安全を推進するための理念をホームページに掲げるとともに、「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」に基づき医療事故等を公表することにより、より透明な、より安全な医療システムを確立し、尊い生命を預かる病院として信頼できる質の高い医療を提供する。

7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

1) 患者及びその家族から医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うために、患者相談室を設置する。誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を被らないこと及び患者等の情報の保護のために適切な配慮を講じるものとする。

2) 医療安全に関わる苦情や相談については、医療安全管理委員会やセーフティーマネージャー会議等に詳細に報告し当院の医療安全対策の見直し等に活用する。

8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

1) 医療安全をより推進させるために、「リスクマネジメントマニュアル」は定期的（年1回）及び随時改訂し、その内容を病院全職員へ周知・徹底する。また、医療安全確保体制の見直しを行うとともに、他機関からの情報収集に努め医療安全の改善・推進を図る。

2) 高難度新規医療技術等を用いた医療を提供する場合には、関係法令等を遵守し、関係学会による「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する。

3) 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には、法令に基づいた部門で評価及び管理を行う。

9. 医療安全推進のための外部からの監査・評価に関する基本方針

1) 医療法に基づき外部委員による医療安全に関する監査を年2回、特定機能病院間での医療安全活動に関するピアレビューを年1回実施する。

2) 医療法に基づき医療機関内における事故の発生防止に係る第三者評価を受け、評価及び改善すべき内容を公表し、当該評価を踏まえて必要な対策を行うものとする。

10. 本指針の周知並びに見直し及び改訂

- 1) 本指針の内容は、医療安全管理委員会を通じて、全職員に周知徹底する。
- 2) 医療安全管理委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ検討するものとする。

附 則

本指針は、平成19年12月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成23年4月14日から施行する。

附 則

本指針は、平成26年5月20日から施行する。

附 則

本指針は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

本指針は、平成28年7月19日から施行する。

附 則

本指針は、平成29年11月21日から施行する。

附 則

本指針は、平成30年2月20日から施行する。

附 則

本指針は、令和2年2月18日から施行する。

附 則

本指針は、令和3年5月18日から施行し、4月1日から適用する。

附 則

本指針は、令和5年6月20日から施行し、この指針による改正後の医療に係る安全管理のための指針の規定は、同年4月1日から適用する。

10 医療安全管理委員会設置規程

2016. 9. 30 制定

2024. 4. 1 改訂

1 設置

名古屋市立大学病院（以下「本院」という。）に、本院内で医療に係る安全管理を目的として、名古屋市立大学病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 組織

- (1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。
- (2) 委員長は、医療安全管理責任者である医療安全管理部長とし、副委員長は、医療の質管理部長とする。
- (3) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
 - ア 病院長
 - イ 医薬品安全管理責任者
 - ウ 医療機器安全管理責任者
 - エ 医療放射線安全管理責任者
 - オ 病院部長会で選出された部長2名（内科系1名、外科系1名）
 - カ 病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の分野単位とする。）及び中央部門から選出された教員3名（内科系1名、外科系1名、中央部門1名）
 - キ 感染制御部長
 - ク 看護部長
 - ケ 病院管理部長
 - コ 医事課長（国際医療連携部所管事務課長）
 - サ 医療安全管理部副部長
 - シ 外部有識者2名

3 審議事項

委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 医療事故の調査、分析及び再発防止策に関すること
なお、特定機能病院である本院管理者が定める水準以上の事象（「医療事故発生時の対応」に定める＜報告すべき「医療事故」の定義＞に定める事象をいう。）が発生した場合の報告が適切に実施されているかを確認し、結果を本院管理者に報告する。報告が不十分な場合は報告が適切になされるよう研修・指導等を行う。
- (2) 医療に係る安全管理のための職員研修及び広報に関すること
- (3) 医療事故等の公表に関すること

(4) その他医療に係る安全管理に関すること

4 会 議

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故がある時は、副委員長がその職務を代行する。
- (3) 委員会は、構成員の2分の1以上の出席がなければ開くことができない。委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。
- (4) 病院長がやむを得ない事由で出席できないときは、院長代行を代理人として出席させ、議決に参加させることができる。
- (5) 委員がやむを得ない事由で出席できないときは、あらかじめ委員長の承認を得た場合に限り、代理人を出席させることができる。なお、代理人を出席させることができる委員は委員長が別に定める。
- (6) 委員長が必要と認めるときは、構成員以外の者に出席を求め意見を聴くことができる。
- (7) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

5 庶 務

委員会の庶務は、医療安全管理部において行う。

6 その他

この規程に定めることのほか、医療に係る安全管理に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮ったうえで定める。

附 則

- 1 この規程は、平成28年9月30日から施行する。
- 2 医療安全管理委員会設置要綱は廃止する。

附 則

この規程は、平成29年5月16日から施行し、4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成29年11月21日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月5日から施行し、同月1日から適用する。

附 則

この規程は、令和5年4月18日から施行し、同月1日から適用する。

附 則

この規程は、令和6年7月16日から施行し、同年4月1日から適用する。

令和5年度 安全管理の体制確保のための職員研修の実績

年月日	研修会名等	対象職員	参加者数	時間	内容
R5. 4. 3 4. 4	新規採用者研修会	新規採用者研修	362名	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院長訓示・講話 4/3 ・ 医療倫理について 4/3 ・ 医療安全管理について 4/3 ・ 災害対策について eラーニング ・ 個人情報保護について eラーニング ・ 医療機器の取り扱いについて 4/3 ・ 院内感染対策について 4/3, 4 ・ 医薬品安全管理について 4/4 ・ 放射線安全管理について 4/3 ・ 利益相反マネジメントについて ・ 保険診療と診療録の記載について 4/4 ・ 組織概要・福利厚生紹介について eラーニング ・ 経営・マネジメントについて eラーニング
R5. 7. 14	医師事務作業補助者研修	医師事務作業補助者就業前の職員	5名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故防止の基本的な考え方 ・ 名古屋市立大学病院の医療安全対策と具体的な対応
R6. 2. 14			12名		
R5. 7. 3～28	医薬品安全管理研修会 ※eラーニング開催	全職員	1174名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻薬の取り扱いについて
R5. 7. 26	中途採用者研修会	全職員	24名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理について（戸澤部長） ・ 電子カルテ内の安全情報について（水野主幹） ・ 医療機器安全管理について（田島係長） ・ 医薬品安全管理について（上野主査）
R5. 11. 22			3名		
R6. 2. 14			9名		
R5. 8. 30	医療事故防止講演会	全職員	322名	1時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・ せん妄・認知症の理解と対応
(DVD講演会) R5. 9. 4 R5. 9. 6 R5. 9. 20			570名		
(eラーニング) R5. 10. 16～31 R5. 11. 10～22			823名		
R6. 2. 6	危機管理研修会	全職員	271名	1時00分	感染制御部と合同開催 ①抗菌薬適正使用研修会 ②危機管理研修会 当院で発生した重大事例について 医療監視、特定機能病院間相互チェックをうけて
(DVD講演会) R6. 2. 7 R6. 2. 14 R6. 2. 15 R6. 2. 16			236名		
(eラーニング) R6. 2. 19～3. 8			1192名		
R6. 2. 19～ 3. 8	倫理研修会 ※eラーニング開催	全職員	1132名	-	

研修の名称	研修の主な内容 (名称から読み取れる場合は記載不要です)	研修の期間 (開催日)	実施回数 (合計)	参加人数	対象職種	担当部署
新規採用薬説明会		2023年4月12日	4回	10名	薬剤師	薬剤部
		2023年7月14日		15名		
		2023年10月11日		20名		
		2024年1月11日		20名		
名古屋市大連携病院合同化学療法勉強会 目的 ①育成：がん診療チームの一員として治療目標を共有し、自分自身で学び、専門性を発揮できる人材を育成する。 ②共有：専門領域・職種・施設を超えて、がん診療の基本的かつ重要な知見を理解・共有する。	がん診療の今、第4期がん対策推進基本計画とは アレルギー、血管外漏出、曝露対策 薬薬連携、化学療法関連加算など、レジメン がん治療における高齢者機能評価、がん包括的支援 Onconephrologyの最近のトピックス	2023年9月20日	5回	89名	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、医療事務など	名古屋市立大学 大学院医学研究科
		2023年10月18日		94名		
		2023年11月15日		83名		
		2023年12月20日		62名		
		2024年1月17日		58名		

① 新しい医療機器の導入時の研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
(例)	2009/6/1 2009/6/3	人工呼吸器の取り扱い方	講義、講義映像の視聴	看護師	100	
1	2023/4/4	CPM L4KD L4D	講義・実技	看護師	10	12階北病棟
2	2023/6/27	電動式低圧吸引器 メラサキューム009	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学室
3	2023/7/5	小児用ギブス台 Spica Table	講義・実技	臨床工学技士	4	臨床工学室
4	2023/7/13	陰圧維持管理装置 ABTHERA	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工学室
5	2023/8/18	PTCAバルーン Sappnine3	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学室
6	2023/8/31	冠血管向けバルーン拡張式血管形成術用カテーテル AGENT	講義・実技	臨床工学技士	16	臨床工学室
7	2023/9/5	アテローム切除アブレーション式血管形成術、カテーテル駆動装置 SHOCKWAVE	講義・実技	臨床工学技士	14	臨床工学室
8	2023/9/7	アテローム切除アブレーション式血管形成術、カテーテル駆動装置 SHOCKWAVE	講義・実技	医師・臨床工学技士	15	循環器内科・臨床工学室
9	2023/9/14	ダイアライザー PES-Eα、APS-UA 等	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
10	2023/10/24	シリンジポンプ EN-SP50	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	16	臨床工学室
11	2023/10/31	シリンジポンプ EN-SP50	講義・実技	看護師	17	NICU・GCU
12	2023/11/1	シリンジポンプ EN-SP50	講義・実技	看護師	11	NICU・GCU
13	2023/11/2	シリンジポンプ EN-SP50	講義・実技	看護師	11	NICU・GCU
14	2023/11/7	ベッドサイドモニタ	講義・実技	看護師	7	9階南病棟
15	2023/12/1	全自動遺伝子解析装置 FilmArray Torchシステム	講義・実技	臨床検査技師	6	微生物検査係
16	2023/12/8	全自動血液培養装置 バクテアラートVIRTUO	講義・実技	臨床検査技師	6	微生物検査係
17	2023/12/12	起動粘液書巨装置 コンフォートカフII	講義・実技	臨床工学技士	13	臨床工学室
18	2023/12/20	放射線治療用線量測定器 IC PROFILER	講義・実技	診療放射線技師	10	放射線技術科
19	2023/12/20	デジタル式乳房用X線診断装置 AMULET SOPHINITY (FDR MS-4000)	講義・実技	診療放射線技師	17	放射線技術科
20	2024/1/29	据置型デジタル式汎用X線透視診断装置 Astorex i9 ASTX-I9000	講義・実技	診療放射線技師	43	放射線技術科
21	2024/2/21	医薬品注入器 ドリップアイNE-3	講義・実技	看護師	3	がん支援
22	2024/2/27	医薬品注入器 ドリップアイNE-3	講義・実技	看護師	6	がん支援
23	2024/2/27	医薬品注入器 ドリップアイNE-3	講義・実技	臨床工学技士・委託職員	17	臨床工学室
24	2024/3/5	手術用ロボット手術補助ユニット ANSURサージカルユニット	講義・実技	看護師・臨床工学技士	18	中央手術部・臨床工学室
25	2024/3/6	多相電動式造影剤注入装置 MRXperionインジェクションシステム	講義・実技	診療放射線技師	7	放射線技術科
26	2024/3/7	MRI装置 MR7700	講義・実技	診療放射線技師	9	放射線技術科
27	2024/3/14	汎用電動式手術台 外科用手術台 DR-2600	講義・実技	診療放射線技師	10	放射線技術科

② 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関する研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2023/4/4	人工呼吸器 トリロジーO2Plus	講義・実技	看護師	9	16階南病棟
2	2023/4/5	人工呼吸器 トリロジーO2Plus	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	33	医学部
3	2023/4/5	人工呼吸器 トリロジーEvo	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	33	医学部
4	2023/4/5	人工呼吸器 V60	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	33	医学部
5	2023/4/5	人工呼吸器 HAMILTON C6	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	33	医学部
6	2023/4/5	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	33	医学部
7	2023/4/6	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	看護師	9	15階南病棟

8	2023/4/20	除細動器 TEC-5600	講義・実技	看護師	4	9階北病棟
9	2023/4/20	除細動器 TEC-5600	講義・実技	新規採用者 看護師	4	9階北病棟
10	2023/4/27	高エネルギーX線発生装置 TrueBeam	講義・実技	診療放射線技 師	23	放射線技術科
11	2023/4/27	高エネルギーX線発生装置 TomoHD	講義・実技	診療放射線技 師	23	放射線技術科
12	2023/4/27	高エネルギーX線発生装置 Radixact	講義・実技	診療放射線技 師	23	放射線技術科
13	2023/4/27	密封小線源放射線治療装置	講義・実技	診療放射線技 師	23	放射線技術科
14	2023/4/27	人工呼吸器 980	講義・実技	新規採用者 看護師・臨床工学技士	13	ICU・臨床工学室
15	2023/4/27	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	新規採用者 看護師・臨床工学技士	13	ICU・臨床工学室
16	2023/5/9	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	新規採用者 看護師	12	救命救急センター
17	2023/5/9	除細動器 TEC-5631	講義・実技	新規採用者 看護師	12	救命救急センター
18	2023/5/16	保育器 TN500	講義・実技	新規採用者 看護師	12	NICU
19	2023/5/16	人工呼吸器 サイバップ	講義・実技	新規採用者 看護師	12	NICU
20	2023/5/23	保育器 TN500	講義・実技	中途採用者 看護師	3	NICU
21	2023/5/23	人工呼吸器 TN500	講義・実技	中途採用者 看護師	3	NICU
22	2023/5/23	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	中途採用者 看護師	3	NICU
23	2023/5/23	人工呼吸器 サイバップ	講義・実技	中途採用者 看護師	3	NICU
24	2023/5/26	人工呼吸器 トリロジーO2Plus	講義・実技	新規採用者 看護師	4	9階北病棟
25	2023/5/26	人工呼吸器 トリロジーO2Plus	講義・実技	新規採用者 看護師	4	9階北病棟
26	2023/5/29	人工呼吸器 トリロジーO2Plus	講義・実技	看護師	7	16階南病棟
27	2023/5/30	血液浄化療法器 AcuFil Multi 55X-III	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工学室
28	2023/6/1	人工呼吸器 トリロジーO2Plus	講義・実技	看護師	10	12階南病棟
29	2023/6/1	遠心型血液成分分離装置 オプティア	講義・実技	臨床工学技士	2	臨床工学室
30	2023/6/7	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	看護師	5	17階南病棟
31	2023/6/8	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	看護師	5	17階南病棟
32	2023/6/15	透析装置 DBB-100NX	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工学室
33	2023/6/20	人工呼吸器 VN500	講義・実技	看護師	7	NICU
34	2023/6/20	人工呼吸器 ハミングX	講義・実技	看護師	7	NICU
35	2023/6/22	補助人工心肺装置 HAS II	講義・実技	看護師・臨床工学技士	13	ICU・臨床工学室
36	2023/6/23	植込み型補助心臓 ハートメイトIII	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学室
37	2023/6/23	補助人工心肺装置 HAS II	講義・実技	看護師・臨床工学技士	10	ICU・看護事務室・臨 床工学室
38	2023/7/13	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	36	看護部
39	2023/8/3	人工心肺装置 HAS II	講義・実技	臨床工学技士	15	臨床工学室
40	2023/8/8	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	45	看護部
41	2023/8/10	人工透析装置 DBB100NX	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工学室
42	2023/8/15	人工心肺装置 Essenz	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学室
43	2023/8/18	人工臓器 STG	講義・実技	看護師	11	14階南病棟
44	2023/8/22	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	57	全部署
45	2023/9/22	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	28	全部署
46	2023/9/26	人工呼吸器 ファビアン	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
47	2023/10/3	人工呼吸器 ネーザルハイフロー	講義・実技	研修医	28	研修医
48	2023/10/4	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	看護師	11	11階北病棟
49	2023/10/4	人工呼吸器 ファビアン	講義・実技	看護師	11	NICU
50	2023/10/5	人工呼吸器 ファビアン	講義・実技	看護師	13	NICU

51	2023/10/6	人工呼吸器 V60	講義・実技	看護師	34	全部署
52	2023/10/12	人工呼吸器 トリロジーO2	講義・実技	看護師	33	全部署
53	2023/10/13	人工呼吸器 fabian	講義・実技	看護師	9	NICU
54	2023/10/17	ネーザルハイフロー プレンダ	講義・実技	研修医	28	研修医
55	2023/10/17	ネーザルハイフロー Airvo2	講義・実技	研修医	28	研修医
56	2023/10/17	ネーザルハイフロー プレシジョン	講義・実技	研修医	28	研修医
57	2023/10/17	人工呼吸器 T1	講義・実技	研修医	28	研修医
58	2023/10/17	人工呼吸器 MR1	講義・実技	研修医	28	研修医
59	2023/10/17	人工呼吸器 C6	講義・実技	研修医	28	研修医
60	2023/10/20	人工呼吸器 トリロジーEVO	講義・実技	看護師	7	17階南病棟
61	2023/10/24	人工呼吸器 トリロジーEVO	講義・実技	看護師	8	17階南病棟
62	2023/10/25	CRT-D Rivacor 7HF-TQP・HF-T	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工学室
63	2023/10/26	高エネルギーX線発生装置 TrueBeam	講義・実技	診療放射線技師	23	放射線技術科
64	2023/10/26	高エネルギーX線発生装置 TomoHD	講義・実技	診療放射線技師	23	放射線技術科
65	2023/10/26	高エネルギーX線発生装置 Radixact	講義・実技	診療放射線技師	23	放射線技術科
66	2023/10/26	密封小線源放射線治療装置 R A L S	講義・実技	診療放射線技師	23	放射線技術科
67	2023/10/30	人工臓器装置 STG/55	講義・実技	看護師	10	14階南病棟
68	2023/11/7	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	8	16階南病棟
69	2023/11/8	人工呼吸器 トリロジーEVO	講義・実技	看護師	8	13階北病棟
70	2023/11/9	人工呼吸器 トリロジーEVO	講義・実技	看護師	10	13階北病棟
71	2023/11/13	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	19	全部署
72	2023/11/14	個人用多用途透析装置 DBB-200Si	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	19	人工透析部
73	2023/11/21	人工呼吸器 HAMILTON-C6	講義・実技	看護師	3	9階北病棟
74	2023/12/5	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	6	9階北病棟
75	2023/12/8	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	46	全部署
76	2023/12/8	人工呼吸器 Prisma VENTO	講義・実技	看護師	7	16階南病棟
77	2023/12/14	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	18	全体
78	2023/12/18	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	7	16階北病棟
79	2023/12/19	ネーザルハイフロー	講義・実技	看護師	14	16階北病棟
80	2023/12/19	人工呼吸器 カフアシスト	講義・実技	看護師	5	9階北病棟
81	2023/12/21	透析装置 NCV-11	講義・実技	看護師・臨床工学技士	12	人工透析部・臨床工学 技術室
82	2024/1/11	人工呼吸器 トリロジーEVO	講義・実技	看護師	5	16階南病棟
83	2024/1/18	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	25	全部署
84	2024/1/18	循環補助用心内留置型ポンプカテーテル用制御装置 Impella	講義・実技	看護師	6	新規採用者
85	2024/1/19	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	5	16階南病棟
86	2024/1/26	循環補助用心内留置型ポンプカテーテル用制御装置 Impella	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学室
87	2024/2/13	人工心肺装置 人工心肺回路	講義・実技	看護師	12	中央手術部
88	2024/2/16	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	17	全体
89	2024/2/20	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	臨床工学技士	14	臨床工学室
90	2024/2/27	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	11	15階南病棟
91	2024/2/29	大動脈バルーンポンプ CARDIOSAVE IABP	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工学室
92	2024/3/1	人工呼吸器 F&P Sleepstyleオート	講義・実技	臨床工学技士	10	臨床工学室
93	2024/3/7	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	看護師	16	ICU・看護事務室

94	2024/3/12	人工呼吸器 トリロジーO2plus	講義・実技	看護師	16	全体
95	2024/3/12	人工呼吸器 ハミルトンC6	講義・実技	看護師	12	ICU

(注) ① 「特に女生体使用に際して技術の習得が必要と考えられる医療機器」とは、①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置

③ ①、②以外に実施している研修

No	開催年月日	研修の内容・対象機器	研修方法	対象職種	参加者数	備考
1	2023/4/5	輸液ポンプ TE-161S	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	33	医学部
2	2023/4/5	シリンジポンプ TE-351	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	33	医学部
3	2023/4/5	磁気刺激治療装置 ニューロスター	講義・実技	新規採用者研修 初期研修医	8	精神科
4	2023/4/6	esCCOモニター	講義・実技	臨床工学技士	3	臨床工学室
5	2023/4/20	12誘導心電計 ECG-2450	講義・実技	看護師	4	9階北病棟
6	2023/4/20	12誘導心電計 ECG-2450	講義・実技	新規採用者 看護師	4	9階北病棟
7	2023/6/12	マイトラリリップ	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
8	2023/6/22	一酸化窒素ガス管理装置 アイノフロー	講義・実技	看護師・臨床工学技士	13	ICU・臨床工学室
9	2023/6/23	一酸化窒素ガス管理装置 アイノフロー	講義・実技	看護師・臨床工学技士	10	ICU・看護事務室・臨床工学室
10	2023/6/26	消化管拡張バルーンカテーテル キャプチャーターII	講義・実技	看護師	10	内視鏡医療センター
11	2023/7/6	シャント管理について	講義・実技	臨床工学技士・看護師	11	臨床工学室
12	2023/7/18	止血デバイス PERCLOSE PROSTYLE	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学室
13	2023/7/25	カルトシステム	講義・実技	臨床工学技士	5	臨床工学室
14	2023/8/9	麻酔器 ペルセウス	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工学室
15	2023/8/22	バイタルサインシミュレータ	講義・実技	看護師	10	ICU/PICU/CCU
16	2023/8/23	吸着型血液浄化器 レオカーナ	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工学室
17	2023/8/25	画像診断装置 OCT	講義・実技	臨床工学技士	13	臨床工学室
18	2023/9/1	心電図基礎	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
19	2023/9/7	陰圧閉鎖療法システム Renasys touch	講義・実技	看護師	12	17階南病棟
20	2023/9/12	顕微鏡 BX43	講義・実技	臨床検査技師	6	微生物検査係
21	2023/9/21	低圧持続吸引器 HAMA サーボドレインSD3000	講義・実技	看護師	9	11階南病棟
22	2023/9/21	熱希釈心拍出量計 ビジランス 他項目モニター ヘモスフィア	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学室
23	2023/9/22	熱希釈心拍出量計 ビジランス 他項目モニター ヘモスフィア	講義・実技	医師	6	麻酔科
24	2023/9/25	間接熱量計 モバイルエアロモニター AE-100i	講義・実技	管理栄養士	6	栄養管理係
25	2023/9/26	熱希釈心拍出量計 ビジランス 他項目モニター ヘモスフィア	講義・実技	医師	9	麻酔科
26	2023/10/2	筋弛緩モニター Twitch View	講義・実技	臨床工学技士	9	臨床工学室
27	2023/10/3	医薬品注入コントローラ DRIP EYE NE-1	講義・実技	看護師	20	外来
28	2023/10/5	医薬品注入コントローラ DRIP EYE NE-1	講義・実技	看護師	17	外来
29	2023/10/17	NIRSモニター INVOS7100	講義・実技	臨床工学技士	13	臨床工学室
30	2023/10/23	吸着型血液浄化器 レオカーナ	講義・実技	医師・看護師・臨床工学技士	7	人工透析部
31	2023/10/26	12誘導と虚血性心疾患について	講義・実技	臨床工学技士	13	臨床工学室
32	2023/11/1	超音波診断装置 FC1	講義・実技	臨床工学技士	13	臨床工学室
33	2023/11/20	自動カフ圧計 Shiley	講義・実技	看護師	7	9階北病棟
34	2023/11/21	ペースメーカー リードレスPM	講義・実技	臨床工学技士	11	臨床工学室
35	2023/12/14	排痰補助装置 カファシストE70	講義・実技	看護師	7	9階北病棟
36	2024/1/16	汎用心音計 心音検査装置AMI-SSS01超聴診器	講義・実技	臨床工学技士	12	臨床工学室

37	2024/1/18	NO装置 アイノフロー	講義・実技	看護師新規採用者	4	NICU
38	2024/1/18	脳低体温装置 サーモエクスチェンジャー	講義・実技	看護師新規採用者	4	NICU
39	2024/1/18	ペースメーカー ICD	講義・実技	臨床工学技士	8	臨床工学室
40	2024/1/26	レーザー式血管形成術用カテーテル エキシマレーザーTurboカテーテル	講義・実技	臨床工学技士	7	臨床工学室
41	2024/3/1	SBAR 概要	講義	臨床工学技士	8	臨床工学室
42	2024/3/27	体組成測定器 InBody 770	講義・実技	管理栄養士	4	栄養管理係
43	2024/3/27	体組成測定器 InBody S10	講義・実技	管理栄養士	4	栄養管理係

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人格が高潔で、学識が優れ、かつ、公立大学法人名古屋市立大学中期目標及び中期目標を達成するための計画である公立大学法人名古屋市立大学中期計画に掲げる事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢及び指導力を有する者 2. 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有する者であって、以下の基準を全て満たす者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次のいずれかの業務に従事した経験がある者 <ol style="list-style-type: none"> イ) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者又は医療機器安全管理責任者の業務 ロ) 医療安全管理に関する委員会の構成員としての業務 ハ) 医療安全管理に関する部門における業務 ニ) その他上記に準ずる業務 (2) 医療安全管理業務経験を踏まえ、医療安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者 3. 組織管理能力等の病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力を有している者であって、当院又は当院に準ずる規模の他の病院において、病院長、副病院長、病院長補佐、診療科部長又は中央部門長（これらに準ずる職を含む。）の経験がある者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 ホームページにて公表 https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属		選定理由	

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 診療に関すること</p> <p>(2) 病院の規程の制定改廃に関すること</p> <p>(3) 病院の運営方針に関すること</p> <p>(4) 中期目標・中期計画に関すること</p> <p>(5) 予算及び決算に関すること</p> <p>(6) その他病院の運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 会議資料の閲覧及び電子カルテ共有ファイルサーバーへの掲載を行っている。 必要があれば、個別案件ごとに関係委員会での報告や院内広報誌への掲載等も行い、周知徹底を図っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無)</p> <p>・公表の方法 https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
間瀬 光人	○	医師	病院長
森田 明理		医師	院長代行・副病院長
松川 則之		医師	副病院長
林 祐太郎		医師	副病院長
戸澤 啓一		医師	副病院長
瀧口 修司		医師	副病院長
山本 あゆみ		看護師	副病院長
遠山 竜也		医師	病院長補佐
瀬尾 由広		医師	病院長補佐
村上 英樹		医師	病院長補佐
日比 陽子		薬剤師	病院長補佐
宮崎 景		医師	診療科部長
片岡 洋望		医師	診療科部長
藤原 圭		医師	診療科部長

新実 彰男		医師	診療科部長
難波 大夫		医師	診療科部長
田中 智洋		医師	診療科部長
飯田 真介		医師	診療科部長
濱野 高行		医師	診療科部長
奥田 勝裕		医師	診療科部長
須田 久雄		医師	診療科部長
高木 大輔		医師	診療科副部長
杉浦 真弓		医師	診療科部長
齋藤 伸治		医師	診療科部長
安川 力		医師	診療科部長
岩崎 真一		医師	診療科部長
鳥山 和宏		医師	診療科部長
安井 孝周		医師	診療科部長
明智 龍男		医師	診療科部長
樋渡 昭雄		医師	診療科部長
祖父江 和哉		医師	診療科部長
渋谷 恭之		歯科医師	診療科部長
笹野 寛		医師	診療科部長
服部 友紀		医師	診療科部長
植木 美乃		医師	診療科部長
岡本 秀貴		医師	診療科部長
井上 貴子		医師	中央部門部長
久保田 英嗣		医師	中央部門部長
高橋 智		医師	中央部門部長
小松 弘和		医師	中央部門部長
佐藤 慎太郎		医師	中央部門部長
杉浦 健之		医師	中央部門部長
山岸 庸太		医師	中央部門部長
中村 敦		医師	中央部門部長
神谷 武		医師	中央部門部長
田中 基		医師	中央部門部長
野尻 俊輔		医師	中央部門部長
堀場 充哉		理学療法士	中央部門部長
山村 清佳		看護師	中央部門部長
田中 雅隆		事務	病院管理部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

- ・ 公表の方法

ホームページにて公表

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/>

- ・ 規程の主な内容

(1) 病院長の人事権について

病院幹部の選任について院長代行、副病院長等、看護部長、診療科部長等の選考規程を制定し、各規程に基づいて選任している。開設者が公立大学法人である当院において、人事における任命権については、法人の長たる理事長が有しているが、病院長は選考の過程で関与する仕組みとなっており、病院長の意思が反映されている。

(2) 病院長の予算執行に係る権限について

規定により、病院の予算責任者である病院長が予算に基づき執行することとされている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

(1) 院長代行、副病院長及び病院長補佐

森田 明理院長代行

副病院長（診療・医療体制強化担当）

松川 則之副病院長（研究担当）

林 祐太郎副病院長（戦略企画・経営管理担当）

戸澤 啓一副病院長（医療安全管理担当）

瀧口 修司副病院長（医療情報/DX・手術機能強化担当）

山本 あゆみ副病院長（経営・業務管理担当）

遠山 竜也病院長補佐（労働環境担当）

瀬尾 由広病院長補佐（医療の質管理担当）

村上 英樹病院長補佐（教育担当）

日比 陽子病院長補佐（保険診療（薬剤）担当）

(2) 各副病院長及び病院長補佐を補佐する企画スタッフ等

戦略企画室（収益向上策、費用削減策の企画立案等）

情報発信・広報戦略室（広報戦略立案等）

診療報酬マネジメント室（診療収入に係る分析、企画立案等）

(3) 外部有識者からの意見聴取の機会

経営協議会（病院経営に見識のある外部有識者を含めた

診療収入の確保及び経費の節減策など病院の経営改善会議）

・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

厚生労働省関係

研修開催日	研修名称	参加者	備考（主催）
2023/8/29	トップマネジメント研修	遠山病院長補佐	厚生労働省委託事業実施機関デロイトトーマツコンサルティング合同会社
2023/11/22	トップマネジメント研修	間瀬病院長	厚生労働省委託事業実施機関デロイトトーマツコンサルティング合同会社
2024/2/8	医療専門職支援人材活用セミナー	間瀬病院長	厚生労働省医政局医事課 医師等医療従事者働き方改革推進室

国立大学附属病院 病院長会議事務局主催研修

研修開催日	研修名称	参加者	備考（主催）
2023/8/24-8/25	令和5年度 国公立大学病院係長級研修	管理課職員1名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2022/9/14-9/15	令和5年度 国公立大学病院一般職員研修	管理課職員1名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2023/10/24-10/25	令和4年度 国立大学病院医事関連業務スタッフセミナー	医事課職員1名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会
2023/11/16-11/17	令和4年度 国立大学病院医事系事務職員初期研修	医事課職員1名	全国国立大学病院事務部長会議総務委員会

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全に係る会議の運営状況 2 インシデント・アクシデントレポートの報告及び対応状況 3 医薬品安全管理・医療機器安全管理の実施状況 4 医療安全に係る研修の実施状況 5 医療監視等における監督官庁からの医療安全に係る指摘事項への対応状況 6 他の特定機能病院による立入検査の実施及び対応状況 	

7 その他、医療安全に関すること

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 委員名簿の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ ）
- ・ 公表の方法：

病院ホームページにて公表している

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/anzen-kanri/externalauditor/>

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
宮本 忠壽	知多厚生病院 名誉院長	○	医療安全に関する業務に従事した経験を持つ医師	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
岩崎 良平	日本ガイシ株式会社代表取締役副社長		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
蘆原 千晶	中日新聞記者		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
大磯 義一郎	浜松医科大学 医学部医学科 総合人間科学 法学教授		法律に関する識見を有する者	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

法人にコンプライアンス推進室を設置し、法人の定める規程に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制として「内部統制システム」を整備し、内部統制が有効に機能していることを継続的に評価するための「モニタリング」を実施している。
モニタリングの結果は、事務局長を委員長とする内部統制委員会を年2回開催し、報告することとしている。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)

・ 公表の方法

病院及び大学のホームページにて公表

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/about/outline/byouinkinou/special-function/>

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事長、副理事長及び理事（内2名外部理事）をもって構成される役員会において、次の事項の審議を行うこととされている。病院長も理事として、役員会に参加し、病院の管理運営状況について随時報告聴取が行われている。 (1) 中期目標についての意見（地方独立行政法人法第78条第3項の規定により市長に対し述べる意見をいう。）及び年度計画に関する事項 (2) 地方独立行政法人法により市長の認可又は承認を受けなければならない事項 (3) 予算の作成及び執行並びに決算に関する事項 (4) 大学、学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止に関する事項 (5) その他役員会が定める重要事項 ・ 会議体の実施状況（ 年 12 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年 5 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページにて公開 http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/operations/rules/index.html 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 リスクマネジメントマニュアル、職員の心得及び電子カルテへ掲載し、周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>【院外広報紙】 ○広報紙「さくらほっとNEWS」を年4回発行し、当院の最新情報やお知らせを患者や地域の住民向けに発信している。広報誌は病院ウェブサイトにも掲載、また、院内の外来に設置したり、また院外（近隣病院、市内区役所等）に配布したりしている。</p> <p>【病院ウェブサイト等】 ○病院ウェブサイトや外来で放映している映像情報端末メディネットに、当院のご案内、最新のお知らせ、患者・一般向け、医療関係者向けの情報を掲載している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>○必要に応じ、関係診療科へ診療依頼を行う体制がある。</p> <p>○複数の診療科による合同のカンファレンスを実施している。</p> <p>○全診療科の代表者を含む各種委員会を定期的に開催している。</p> <p>○複数の診療科によって組織する「センター」機能を有し、診療科ごとの特性を融合することにより、特色となる診療を実施したり、診療の支援業務や教育・研究業務などを行っている。</p> <p>○医療安全、感染、栄養サポート（NST）、褥瘡など、複数の診療科、多職種を交えてチームを組み、対策を行っている。</p> <p>○救命救急センターとして24時間365日医療が提供できるよう、全診療科が連携して救急医療のバックアップ体制を整えている。</p>	